

同窓会報



鳥羽商船同窓会

〒517-8501
三重県鳥羽市池上町1番1号
TEL/FAX (0599) 25-8128
振替口座番号 00850-6-846



◆ 目 次 ◆

同窓会の主たる活動……………	2	バレーボール部の活動……………	21
同窓会会長挨拶……………	3	クラス会……………	22
学校だより……………	4	博士号授与……………	24
新校長挨拶……………	9	会員の投稿……………	24
平成21年度会務報告……………	10	会員紹介……………	26
平成22年度会務報告並びに計画……………	10	事務局だより……………	26
平成22年度行事実績・予定……………	12	会員の移動等……………	28
平成21年度会計報告……………	13	訃報……………	30
会計監査報告……………	14	新入会員……………	31
平成22年度予算……………	15	住所変更……………	32
同窓会役員・理事名簿……………	16	寄付金・会費納入一覧……………	37
支部だより……………	17	同窓会運営細則(改定)……………	40

同窓会の主たる活動

母校の発展と海事思想普及の為、同窓会が主催若しくは協力して以下の活動を行いました。

今後とも同様の活動を継続して行いたいと考えます。

同窓会のホームページに関連記事がありますので見て下さい。

2009 年度故郷の海を愛する会の活動報告

12月20日、母校において伊勢・鳥羽・志摩地区の小中学生51名が参加した故郷の海を愛する会の活動3「海の国日本を学ぶ、商船学校の歴史・船と海の話、遊んで学ぼう」が多くのボランティア並びに学校の協力のもと成功裏に終了しました。

「商船の歴史と近藤真琴」を田中三郎さん、

「船と海」を塩沢進さん、

「コンピューターの時代」を江崎修央さん、

同窓生の上記皆さんのお話の後、子どもたちは班ごとに操船シミュレーター、内燃機関、ロボット、記念館を巡り、体験しました。楽しんでくれたようです。

ボランティアの皆さん、お疲れ様でした。



合同進学ガイダンス開催

平成22年7月17日に東京で合同進学ガイダンスが催されました。

東日本支部（水野さん）から以下の情報です。

○同窓会応援参加者 5名（田中三郎副会長、増田信相談役、上山浩相談役、岩田仁理事、水野正治）

○当日の参加家族は70家族以上で、予想していた以上の参加がありました。

プログラムは以下の通りです。

- ①主催者挨拶・オリエンテーション
- ②総合説明（鳥羽商船石田商船学科長）
- ③卒業生からのメッセージ（2名、内1名は鳥羽卒阿部商船三井三機士）を実施
- ④大成丸見学、
- ⑤クルージング
- ⑥各ブースでの個別説明会

個別説明会は石田商船学科長が主として対応され、応援者は後の方で私と田中副会長の2人が自己紹介も兼ねて簡単に話をしました。

鳥羽のブースには、常時30人程が集まり、入学条件や、入学した後の寮生活、卒業後の進路等について、活発な質問が続き、予定時間を超えて最終時間近くまで盛況でした。

7月24日には神戸、25日には福岡で同様に合同進学ガイダンスが開催されました。東京と同様に多くの中学生が参加してくれたようです。



2010 年度故郷の海を愛する会の活動その①

7月28日「故郷の海を愛する会」の活動その①「鳥羽商船練習船鳥羽丸で行く造船所見学と故郷の海山川を知る」が天候にも恵まれ予定通り開催され無事終了しました。

松阪5名、伊勢15名、鳥羽22名、志摩7名、その他4名、合計53名の小中学生が参加しました。

そのうち中学生は10名、小学生は43名でした。

ボランティアは同窓生23名（学生3名含む）他4名合計27名でした。

朝9時に全員集合、9時半鳥羽丸出港、11時半ユニバーサル造船所に到着、13時から造船所の見学、15時造船所出港、17時帰港、その後解散となりました。

子供たちは鳥羽丸では船橋・機関制御室の見学・説明を受け、ロープワークの実技を楽しみました。

又、故郷の海山川も実感しました。

造船所では構内を見学し、艀装中の30万トンのバラ積船をまじかで見てもその大きさにびっくりしていました。子供たちにはいい経験になったと思います。

本活動に際し母校の校長はじめ職員の方々、鳥羽丸乗組員の皆さん、ボランティアの皆さん、ご協力ありがとうございました。

ユニバーサル造船所の関係者の方々、ご協力有難うございました。



2010 年度故郷の海を愛する会の活動その②

8月19日、故郷の海を愛する会の活動その②「伊勢湾フェリーで行く伊勢湾マーティスと故郷の海山」が実施され、無事終了しました。

伊勢・志摩に加え松阪・多気郡の小中学生と鳥羽市の交換留学生（サンタバーバラ）4名を含む合計101名の子供たち、ボランティア22名、藤田商船高専学校長、新聞記者2名、その他4名総合計130名にて実施となりました。

集合時間迄に全員集合し、一名の落後者もなく、伊勢湾フェリー乗船、伊勢湾海上交通センター見学、渥美郷土資料館見学をしました。

楽しみながら海や船、そして故郷を知るいい機会になったと思います。

暑さも心配していたほどでなく、子供たち、更にはボランティアも無事で何よりでした。

日本財団をはじめ多くの方々からご協力を得て、成功裏に終えられたこと感謝いたします。



故郷の海を愛する会の活動その③は10月31日の学校の海学祭に合わせて行います。

[全船協ウィークイン帆船日本丸] 東日本支部活動

[全船協ウィークイン帆船日本丸] が全船協の主催で8月3日から8日の間、開催されました。

同窓会の東日本支部ではこの全船協の行事を支援し、多くの会員がボランティアで参加しました。

この活動は、多くの方に船を知ってもらって、また船乗りになってもらう道が開かれればということで、開催されました。

参加 運営スタッフ 終了後の記念スナップです。

最終日は 会員関係者180名がご来場くださいました。

ご来場者は640名（速報値）。

多数のご来場ありがとうございました

また 記念行事を支えて下さいました運営スタッフの皆様ありがとうございました
（*^-^*）



同窓会会長挨拶

S32N 辻 裕



残暑お見舞い申し上げます。

地球温暖化のせい今年夏は異常な猛暑に見舞われ毎日のように熱中症のニュースが伝えられました。わが同窓会の皆さんには鳥羽商船で鍛えた強靱な体力で無事にこの猛暑を乗り切られたことと思います。

同窓の皆様には連絡窓口の不備でご迷惑をかけてきましたが、この度「同窓会事務局」を開設することが出来ました。

場所は母校の百周年記念会館の一階の一室に設けて事務局を常駐させ会員からの動静の連絡や問い合わせに対応出来ることになりました。皆さんが懐かしい伊勢志摩・鳥羽の地を訪れて母校に立ち寄られた時はT H Cの西岡さんはじめ女性の事務員がお茶など出してくれますので大いに活用してください。

平成19年度から同窓会報を全員に送付することにして今回で4刷目となります。

今まで届けられていなかった同窓生にも送付して同窓会の活動や学校の状況を伝えて同窓会への参加と協力をお願いしてきました。

その中で特に会費の納入について協力をお願いしてきましたが効果が現れてきました。

会費の納入状況は18年度353万円、19年度190万円、20年度317万円、21年度447万円と上昇してきました。このことは同窓会の運営状況を皆さんにご理解いただき多くの方々が生徒会費を納入されるようになった現れであり大変ありがたく嬉しく思います。

会費の収入が同窓会活動の大きな励みであることをご理解いただき今後とも一人でも多くの方のご協力をお願いする次第です。

私事で恐縮ですが4月に噴門痛が見つかり5月に胃全摘手術を受け6月の大阪での総会には出席できませんでした。役員の方々には多大なご迷惑をおかけし、同窓の皆様にはご心配をおかけして申し訳ありませんでした。経過は極めて順調です。鳥羽商船の相撲部で鍛えた頑健な体力と精神力でこの大病を乗り越えることができたと自負しています。今年秋頃には会長の公務に復帰出来るそうです。会長の任期を全うできるよう頑張りますのでよろしく願いいたします。

同窓会会費

同窓会会費納入のお願い

円滑な同窓会運営の為会費納入にご協力下さい。滞納の方は分割でも結構です。

学校だより

平成21年9月～平成22年8月

S 48 N 鈴木 秀司

◎ 年間行事 (暦順に掲載)

平成 21 年度商船学科卒業式・専攻科 (海事システム学専攻) 修了式

第 38 回商船学科卒業証書授与式・第 3 回専攻科 (海事システム学専攻) 修了式が平成 21 年 9 月 16 日 10 時 30 分より第 2 体育館で、来賓・保護者・教職員及び在校生等多数参列のもとに行われました。本年度は航海コース 20 名、機関コース 16 名、専攻科修了生 4 名で山田校長よりそれぞれ卒業証書・修了証書が手渡されました。式辞において、現在の海運界の厳しい状況を、海運の重要性を説明し、1 年間の大型練習船での実習を終えて逞しく成長した卒業生に対して海事関連産業の発展を支えて欲しいと希望を述べられました。また専攻科修了生に対しては、始まったばかりの本校海事システム学の発展のために期待を述べると共に、それぞれの道において、人としても技術者としても自分自身を向上させ、初心を忘れず前向きな精神で歩んで欲しいと述べられました。



平成 21 年度専攻科 (海事システム学専攻) 入学式

平成 21 年度専攻科 (海事システム学専攻) 3 名を迎える入学式が 10 月 5 日 (月) に挙行されました。

海学祭 (第 44 回)

平成 21 年 10 月 31 日、11 月 1 日に「祭りだよ! 全員集合」というテーマで開催されましたが、新型インフルエンザが猛威を振るう中、本校においても 4 年生 3 クラスが閉鎖という状況でした。

規模を縮小せざるを得ない状況の中、学生会、参加学生のがんばりで今年から 2 回に増えた鳥羽丸体験航海等、各種催し物や展示、模擬店など、例年通りの盛り上がりとなり、来校者で賑わいました。



卒業式 (電子機械工学科、制御情報工学科) 並びに専攻科 (生産システム工学) 修了式

平成 22 年 3 月 5 日 (金) 電子機械工学科 28 名、制御情報工学科 37 名の卒業証書授与式及び専攻科 (生産システム工学専攻) 12 名の修了証書授与式が挙行されました。大学 3 年への編入学は M 科 3 名、I 科 7 名、本校専攻科への進学は M 科 5 名、I 科 10 名で専攻科修了生から 4 名が大学院に進みました。



平成 22 年度入学式 (本科・専攻科—生産システム工学)

4 月 7 日 (水) 本校第 2 体育館において平成 22 年度本科並びに専攻科の入学式を挙行いたしました。

本科生 137 名 (S: 45 名 (内女子 8 名)、M: 47 名 (内女子 6 名)、I: 45 (内女子 8 名))、専攻科生 16 名 (内女子 3 名) の計 153 名が入学しました。



式では、藤田校長の入学許可の後、式辞において本校の 129 年に渡る歴史、各学科の紹介、3 つの教育目標について述べられ、「よく学びよく遊べ」の精神で勉強とクラブ活動等において青春時代を大いに楽しみ、それぞれの道においてプロになるための努力を続けて欲しいと述べられました。

時々小雨の降る天気でしたが、校内の桜も満開のなか、不安と期待でやや緊張気味の新入生 137 名を迎えました。



新入生オリエンテーション

新入生を対象としたオリエンテーションが平成22年4月22日(木)、23日(金)と奈良県の国立曾爾青少年自然の家で行われました。目的は①高専生としての自覚を持つ ②集団行動を身につける ③新しい友人をつくる、ことです。

当日は、悪天候(強風雨と雷)の為、ハイキングおよび予備メニューのドッジボールも中止せざるを得ない状況となりました。昼食後は屋内で校長先生の講話から始まり、夕食、入浴を挟み班別会議が行われ、それぞれのテーマで討議が行われました。翌日の発表に当たった学生の中にはずいぶん遅くまで準備に追われた人もいました。

2日目は学生主事の「鳥羽商船で生き残るための話」の後、班別発表が行われました。

屋内のみのオリエンテーションとなり十分な環境は得られませんでした。参加した学生諸君にとっては、高専生として再認識するよい機会になったと思います。

高専体育大会

第48回東海地区国立高等専門学校体育大会が、平成22年6月26、27日、7月3、4日に岐阜高専主管で種目ごとに東海地区の各高専で開催されました。

本校の活躍では、三重県営総合競技場体育館で行われたバレーボール(男子)の部で優勝、鈴鹿高専で行われた男子100m背泳で1位となりました。これらの選手は平成22年8月21日(土)～22日(日)にかけて開催された全国大会(富山高専主管)に出場しました。

なお、全国大会へ出場する選手には、一人当たり5000円の褒賞金が同窓会社会長より贈られました。

鳥羽丸巡航(四日市)

連日猛暑が続く中、平成22年8月1日(日)、鳥羽丸が四日市港まつりに参加しました。(石田商船学科長、嶋岡機関コース主任、佐藤先生、境先生、鎌田先生、学生33名、鳥羽丸乗組員)

船内一般公開には514名と多数の方が見学に訪れました。また、体験航海は、事前に応募した53名が四日市港内の航海を体験しました。小さな子供連れから年配の方まで幅広い年齢層の方が訪船されましたが、参加学生・教職員一丸となって安全維持に努め、無事修了することができました。



今回は、鈴鹿高専との連携強化方針に伴い、ポートビル内のブースにおいて鈴鹿高専と共に高専のPRを行いました。又、鳥羽丸の一般公開においても鈴鹿高専のパンフレット配布を行いました。少子化対策の効果が出ることを期待しています。

同窓会四日市支部、四日市海技専門協議会、四日市港管理組合、S56N谷水一隆氏、H6N高橋直樹氏(コスモ海運)、H16N谷水孝之氏からは、種々の飲み物等を贈呈していただくと共に、鳥羽丸の出入港の出迎え、見送りをして頂きました。

この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



全国高専体育大会の結果

富山高専を主管校として開催された全国高専体育大会において本校から出場したバレーボール(男子)は、三重県営サンアリーナで平成22年8月21日(土)、佐世保高専、長野高専と予選Dブロックでリーグ戦を行い、佐世保高専に破れ2位となり、決勝トーナメントに進めませんでした。

100m・200m背泳に出場したSN4の田中将太郎君は、8月22日(日)に静岡県富士水泳場で、200mは予選15位で決勝進出はなりませんでした。100mは決勝進出し、昨年同様5位入賞を果たしました。田中君は2年生のときから3年連続で全国大会の100m背泳で5位入賞となりました。

全国商船高専漕艇大会

例年7月に開催されてきましたが、今年は大変日程となり、平成22年11月20日、21日に第45回全国商船高専漕艇大会が広島商船高専主催で開催されます。

◎ 各種コンテスト(暦順に掲載)

全日本ソーラー&人力ボートレース大会2009

「カマテック09号」が学生総合準優勝

平成21年9月20日(日)21日(月)に、全日本ソーラー&人力ボートレース大会2009が愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターにて行われました。

この大会はソーラーパワーまたは人力を用いて推進する手作りボートのレースで、毎年1回日本人力ボート協会の主催で大会が開催されています。大会の種目は、200mスピードレース・1000m周回レース・30分耐久レース・1時間耐久レースの4種目があり、ボートのスピードだけでなく、ボート自体の耐久性・操縦性などが求められます。

本校では商船学科の学生達を中心にボートの設計から製作までを行いこの大会に出場しています。今年は3年連続の出場となり新しく設計・製作した出来たての船体の「カマテック09号」で挑戦しました。この新しい船体は5年生の忙しい時期にもかかわらず、約半年間寝る間も惜しんでボートを製作した学生達の努力の結晶です。

大会当日は風が少し強かったものの晴天に恵まれ、水面も去年までの海面とは違い穏やかな水面で「カマテック09号」は参加艇20艇と共にスイスイと順調に走っていました。

レースの結果は200mスピードレースで去年のタイ

ムをわずかに上回り、なんと学生総合準優勝となりました。今後も、高専生らしいアイデアと創造力で新たな記録へのチャレンジを期待していきたいと思います。

(本校ホームページより掲載)



全国高専プログラミングコンテスト

平成 21 年 10 月 17 日・18 日に千葉県のかずさアカデミアホールで行われた第 20 回全国高専プログラミングコンテストにおいて、本校の「magnet station - 動けマグネット -」チームが自由部門において特別賞 (3 位相当) を受賞しました。「magnet station」はホワイトボードなどの鉄板に容易に貼り付け可能なロボットをコンピュータから操作することで汎用的な掲示システムとなります。

舗用の商品掲示や学校の掲示物を目立たせることが効果的に行えます。

(本校ホームページより転載、詳細はホームページ参照)

第 17 回衛星設計コンテストで「電子情報通信学会賞」

平成 21 年 11 月 1 日 (日)、第 17 回衛星設計コンテストの最終審査会が東京の一橋記念講堂で開催されました。このコンテストは大学院や大学、高専生が本格的な人工衛星の設計や惑星探査・宇宙生活などのテーマを自由に選び提案し、専門家に審査されるものです。当日、アイデア部門では、東京工業大学、日本大学および本校チームの 3 件の発表がありました。今回この部門には約 20 件の応募があり、これら 3 チームが論文形式の一次選考を通過し、最終審査会では大学院生チームと競い合い「電子情報通信学会賞」を受賞しました。

本校のチーム (制御情報工学科 5 年・岡田翼君、電子機械工学科 5 年・ホアン君、松本裕介君、商船学科 (機関) 4 年・山口康太君、電子機械工学科 4 年・亀川歩惟さんの 5 名) は、「みんなの宇宙絵本」というテーマでアイデアの部に参加しました。この作品は、インターネットで公開されている人工衛星の軌道情報から衛星の接近を知らせ、その働きなどを易しく解説する、絵本をイメージした子供向けの PC ソフトです。最終審査会では、ソフトウェアの部分のみでなく、プラネタリウムへの応用や宇宙ステーションの機材とのリンク方法など、夢の多いシステムであることを発表しました。メンバへの応援、ご支援、ご協力いただきました教職員の皆様感謝申し上げます。

詳細は (財) 日本宇宙フォーラムの衛星設計コンテストホームページ (<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/>) に掲載中です。報告: (指導教員) 商船学科 伊藤友仁

◎ 注目クラブ活動

ヨット部

平成 22 年 5 月 30 日 (日) 第 65 回千葉国体セーリング部の三重県予選が津市の伊勢湾海洋スポーツセン

ター沖にて開催されました。

少年男子国際 F J 級で本校商船学科 3 年の山本・新堂組が総合 1 着、廣瀬・前田組が 2 着に入り、また、シーホッパー級 S R では少年男子近藤、少年女子中川がそれぞれ総合 2 着に入る健闘を見せました。

先日、予選の結果を受け山本・新堂組が、三重県ヨット連盟より第 65 回千葉県国民体育大会セーリングの部・少年男子セーリングスピリッツ級の三重県代表に選出されることが内定しました。

今後、9 月 26 日より開催される千葉県国体セーリング競技 (千葉市) に向けて、夏休みを返上して練習を重ねていく予定です。(本校ホームページより転載)

平成 21 年 10 月に新潟で開催された国体において、少年男子セーリングスピリッツ級の三重県代表として出場した岡野歩・田中穂積君の成績は 23 位でした。

平成 22 年 6 月 20 日 (土) から 21 日 (日) の 2 日間、愛知県蒲郡市の海陽ヨットハーバー海域にて第 57 回東海高等学校総合体育大会ヨット競技が行われ、三重県代表として本校から F J 級 2 艇が参加しました。

梅雨前線が近づき不安定な天気でしたが無事予定の 6 レースを終えることができました。

全般的には上位に食い込むことができませんでしたが本校から出場した男子 FJ 級 2 艇の個別成績は 11 位と 15 位でした。また学校別の成績では 7 校中 5 位でした。強豪校が集う東海地区で、本校は上位に食い込むことができず、最終成績は昨年同様、個人成績で 11 位と 15 位、学校別では 5 位でした。

新しく部員も増え、今後のレースでの活躍が期待されます。(ホームページより転載)

バレーボール部

(男子) 三重県学生リーグ戦 1 部 準優勝

平成 21 年 11 月 15 日、22 日に開催された三重県学生男女バレーボールリーグ戦秋季大会において、本校バレー部 (男子) は 2 勝 2 敗という戦績でしたが、セット率の差で準優勝となりました。

優勝候補の鈴鹿国際大学が初日に棄権したために不戦勝となるラッキーな面もありました。しかし、優勝した皇学館大学にフルセットで敗れはしましたが、第 2 セットを 32 対 30 の大熱戦の末に獲得したおかげで準優勝を手に入れることができました。

現在のチームは 4 年 3 名、3 年 2 名、2 年 3 名、1 年 3 名の 11 名ですが、今大会は怪我人とインフルエンザによる学級閉鎖のため 8 人での参戦となりました。

このような状況の中で、キャプテンの山川翔平君 (電子機械工学科 4 年) が猛打賞とブロック賞、副キャプテンの岩下信瑛君 (商船学科 4 年) がサーブ賞を獲得する活躍でチームを引っ張ってくれました。

(ホームページより転載)

水泳部

S N4 の田中将太郎君が東海地区高専体育大会において 100m 背泳ぎで連覇を続けています。平成 22 年 8 月 22 日の静岡県富士水泳場での全国大会では 100M で 5 位入賞を果たしました。

◎ 地域活動・地域貢献 (暦順に掲載)

名古屋港開港祭に鳥羽丸が参加

平成 21 年 11 月 6 日～11 月 8 日、名古屋港の開港祭

のために寄港する航海訓練所練習帆船「海王丸」にあわせて、本校練習船「鳥羽丸」も同祭に参加しました。

「海王丸」はセイルドリル及び一般公開を実施し、「鳥羽丸」は本校PRを兼ねて一般公開および体験航海を実施しました。体験航海については、48名の方々に乗船していただきました。また、一般公開も923人の見学者数でした。今回は、航海訓練所のご厚意で、海王丸でのセイルドリルを海王丸の船上から見学できる機会を与えていただき、本学商船学科を志望する中学生を中心に26名が参加しました。実習生がロープを引く姿やマストに上っていく姿を見て、その迫力と緊張感に皆感動したようです。

こうしたイベントへの練習船参加を通じて、一人でも多くの若者が船員を目指してもらえることを熱望し、できれば本校の門を叩いてくれることに期待し、日本のライフラインである海運に多くの人々が興味を持っていただけることを願っております。

本航海実施の際は、名古屋港管理組合および航海訓練所の多大なご支援を賜りました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。(ホームページより転載)



なお、寄港に際し下記の方々からたくさんの飲み物やケーキ等の差し入れをしていただきました。この欄を借りて、厚くお礼を申し上げます。

旭運輸、旭メンテック(株)、東海協和海陸(株)、名古屋港管理組合、同窓会名古屋支部、小甲和己(S43N)、矢野雄基(H19N)、福田真(H18E)、増井唯紘(H18E)、鬼頭和江(実習生) 御父兄

「鳥羽丸」等による災害時協力協定を締結

鳥羽商船高専は、平成21年12月21日に志摩市、H22年2月22日に伊勢市と相次いで、今後発生が予想される大規模自然災害時等において、防災対策を円滑に行なうため、災害時協力協定を締結しました。調印式には、鳥羽商船高専から、山田校長、佐藤副校長、石田商船学科長、安念事務部長が、志摩市からは、大口市長、中村総務部地域防災室長らが出席、伊勢市からは、鈴木市長、大西総務部参事、中村危機管理課長らが出席し、協定書を取り交わしました。

今回の協定は、東海地震及び東南海・南海地震等の災害時に防災対策強化を目的とした練習船「鳥羽丸」等による救援を行なうことを協定事項としています。志摩市はリアス式海岸で入り江が多く、また陸路が遮断された場合に船舶による被災者の救援・支援は必要不可欠であり、伊勢市は伊勢志摩国立公園の玄関口に位置し、伊勢市のまちは「お伊勢さん」と呼ばれ、全国各地から多く

の観光客が訪れます。今後、防災訓練等により連携強化を図る予定です。

同校では、既に平成18年に鳥羽市と同協定を締結しており、今後、志摩市・伊勢市及び大学・水産高校の練習船を含めた伊勢湾内における「海上災害支援ネットワーク(仮称)」の構築を図ることを検討しています。

(ホームページより転載)

鳥羽商船と鈴鹿高専が連携協定を締結

鳥羽商船高専は平成22年3月17日(木)に鈴鹿工業高専において、両校の連携協力と共同事業に関する協定を結びました。

調印式には、山田校長(鳥羽)、高橋校長(鈴鹿)、両副校長、校長補佐ら17名が出席しました。

協定内容は、科学技術の高度化と地域産業構造などを考慮した学科構成や教育課程編成、創造的実践的技術者の育成、相互の学生交流などを通じた豊かな人間教育と工学、海事教育の実施など7項目です。

連携協定を機に、両校の特色、強みを生かし両校の存在価値を高めていきたい。(ホームページより転載)

鳥羽・鈴鹿 寮生会役員合同研修会

鳥羽商船高等専門学校と鈴鹿工業高等専門学校は、両校の連携事業の一環として、寮生会役員の合同研修会を、平成22年5月15日(土)、16日(日)の一泊二日で、練習船「鳥羽丸」において実施しました。

合同研修会は、鳥羽から13名、鈴鹿から17名の寮生会役員が参加し、3班に分かれて「鳥羽丸」の運航業務(伊勢湾内航行後、鳥羽湾沖に錨泊)を体験しました。さらに、船内で行われた交流会では、両寮生会がそれぞれの寮の紹介を行うとともに、寮運営に関わる意見交換会を行いました。

今回の研修会では、それぞれの高等専門学校が培った寮運営の工夫を知ることができたとともに、それぞれの寮生会が抱える問題について異なった視点で意見交換ができたことなど、大変有意義でした。今回の行事は、連携強化による両高専の発展に寄与するものと考えます。

(ホームページより転載)

小学校での出前授業

平成22年7月12日(月)に志摩市立布施田小学校で「レゴを用いたロボット製作入門」の出前授業を実施いたしました。

この講座は、子供たちにレゴロボットを通じて、科学技術やものづくりの面白さを知ってもらうことを目的としています。

当日は、6年生27名を対象に実施し、レゴロボットの組み立てやセンサーの働き及びプログラミングを学びました。子供たちは、自分たちの製作したロボットがプログラムのとおり走行する動きに見入っていました。

7月15日(木)に志摩市立浜島小学校で「風に向かって走れーウインドカーー作成」の出前授業を実施いたしました。

この講座は、子供たちに身近な自然エネルギーである風の力の利用方法について体験してもらい、理解してもらうことを目的としています。

当日は、3年生30名を対象に実施し、ウインドカーを製作した後、風に向かって走行させる体験をしました。子供たちは、自分たちが製作したウインドカーのプロペラが回りながら走行している様子を見て楽しんでいました。

◎ 講演会等

伊勢三河湾水先人による特別講義

昨年に引き続き伊勢三河湾水先人4名(本校卒1名)の方を講師として平成21年9月7日より平成22年2月15日まで15回に亘って、海事技術者養成講座と称して特別講義をしていただきました。講師をしていただいた山田隆弘様、園井幸造様、家田和良様(S41卒)、白石整司様、本当に有難うございました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

◎ 施設・設備

鳥羽丸にJRC製Xバンド・チャートレーダー設置

平成21年10月、上記レーダーを導入しました。正式なECDIS(電子海図情報等表示装置)としては認められませんが、レーダーモード、ECDISモードの両機能を有しておりIHO(国際水路機関)で認定された航海用電子海図(ENC)を表示することができます。さながら、海のカーナビといっても良いかと思えます。さらに、船舶自動識別装置(AIS)との併用により他船情報もディスプレイ上に表示され、航海の安全性に高く貢献するレーダーであります。航海士時代にレピーターと海図を往復しながら位置を入れ続けた者としては隔世の感があります。

もちろん、この装置はGPSの精度に依存しており、基本としての位置測定法が重要であることには変わりありませんが、鳥羽丸の安全航海、学生の実習に十分活用して行きたいと考えています。



チャートレーダー



従来の紙海図

- 1 おもしろ理科実験 7月21日(水) 小中学生
- 2 手作り太陽電池 7月22日、23日 中学生
- 3 親子で電子工作 8月01日(日) 小中学生
- 4 伊勢湾から学ぶ海の環境と汚染の現状 中学生
- 海を救うのは君だ-8月03日(火)
- 5 Wiiリモコンでゲームプログラミング 8月04日(水) 中学生
- 6 小学生のためのバレーボール教室(予定) 小学生
- 10月14日(木)・21日(木)・28日(木)

◎ 最後に同窓生の本校教職員は、下記の9名です。

世宮 利郎 (S43E)	電子機械工学科講師
鈴木 秀司 (S48N)	鳥羽丸船長
竹内 和彦 (S47E)	鳥羽丸機関長
大野 伸良 (S56E)	鳥羽丸一等機関士
出江 幸重 (H3M)	制御情報工学科準教授
江崎 修央 (H4M)	制御情報工学科準教授
濱口 沙織 (H17I)	テクノセンター技術職員
吉岡 裕也 (H16E)	テクノセンター技術職員
中井 一文 (H16I)	テクノセンター技術職員

◎ 教職員人事

定年退職	校長	3月31日	山田 猛敏
勸奨退職	I科教授		藤原 眞彦
退職	一般教育助教		土田 兼治
	(防衛大学校へ)		
	鳥羽丸一等航海士		濱地 義法
	(新日本海フェリーへ復帰)		
新任	校長	4月2日付	藤田 稔彦
	一般教育助教	4月1日付	上野 康平
	鳥羽丸一等航海士		尾形 民雄
	技術職員	H16I卒	中井 一文

◎ 公開講座 平成22年度

サイテクランド in 鳥羽商船(小中学生向け公開講座)

夏休みを中心に下記の講座が行われました。詳しくは、本校ホームページを見て下さい。



三重県立鳥羽商船学校全景



※三重県立鳥羽商船学校時代の写真が見つかりましたのでご紹介します。

新校長挨拶

藤田 稔彦



本年3月末日に定年退職された山田前校長の後任として、4月2日付で本校校長に就任しました。昭和51年3月に東京大学大学院博士課程を修了し、同年7月に東京商船大学(現在の東京海洋大学海洋工学部)に奉職して以来およそ34年間、機関学系で補機の授業を担当し、主に冷凍空調工学分野の研究に従事してきましたが、縁あって本校に赴任することになりました。4月7日の入学式から新入生オリエンテーション、体育祭などの諸行事を経て、若さあふれる学生諸君に接し、また本校教職員の熱意と、お会いした鳥羽商船同窓会や保護者の方々の期待を感じるにつけ、微力ながら、歴史と伝統のある本校の発展に尽したいと決意を新たにいたしました。

本校では4月から安念氏に代わって馬淵事務部長が就任し、伊藤(政)副校長・教務主事、伊藤(文)学生主事、片岡寮務主事を中心とした新体制で臨んでいます。また、地域産業との連携や共同研究等を目的としたこれまでの地域共同テクノセンターと、校内や練習船での教育研究の技術支援を行ってきた技術センターとを一体化して新たにテクノセンターを立ち上げ、佐藤センター長のもとで活動を行っています。

今年の入学者は商船学科45名、電子機械工学科47名、制御情報工学科45名で、合計137名(うち女子23名)です。また、生産システム工学専攻への入学者は16名(同3名)です。4月時点での在籍学生数は、実習生36名を含めて全部で684名(同101名)です。

4月13日に本校の百周年記念資料館で、辻会長、古川伊勢志摩支部長ほか支部理事ご列席のもと、同窓会事務所の開所式が行われました。このとき本校へ勝海舟全集などの貴重な図書といっしょに、「至誠一貫、率先敢闘、和親一致、責任完遂」と書いた生徒規箴の額が寄贈され、ありがたく頂戴しました。かつては寮生全員が暗唱していたそうで、詳しくは存じませんが、元は海軍からと聞きました。どれも守らないとピンタが飛びそうな四字熟語で、今の学生が共感を覚えるかどうか。

4月時点で寮生は、新入生37名を加えて、全部で149名(うち女子19名)ですが、来年度以降も入寮希望者が増える予想されるため、本年度中に先ず暁寮B棟2階の研修室を改修して男子寮を10室ほど増やします。将来計画では、暁寮の改修によりA棟に女子寮35室、A棟とB棟に男子寮138室程度を確保することになっています。

学生寮は現在この暁寮のみです。旧白菊寮については、北寮を産学・地域連携センター、南・北寮間をイベントホール、南寮を船舶職員養成支援センター、食堂をものづくり工房、女子寮を交流センターにする再利用計画案がまとまりました。古い建物の大規模改修で、予算を申請中ですが、獲得は容易でなさそうです。

鈴鹿工業高専とは、平成18年10月に当時の機構理事長からの要請を受けて「鳥羽商船高等専門学校と鈴鹿工業高等専門学校との統合再編検討委員会」を設置し、種々のレベルで会合を重ねてきています。平成21年9月には「鈴鹿工業高専・鳥羽商船高専の連携強化に関する基本方針」を定め(平成22年2月に一部修正)、平成22

年3月に「独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校と鳥羽商船高等専門学校との連携協力及び共同事業の推進に関する協定書」を交わしています。

この基本方針では「三重県下にある両高専が、互いの伝統、強み、特色を活かしつつ連携することにより、教育研究の質の向上と高度化及び地域貢献の強化を図ることを目的とし、地域における高専及びその教育制度の存在感をより高め、もって両校が共に発展することに資する」ことをその目的に謳っています。

また、連携強化活動の内容として、(1)科学技術の高度化と地域産業構造等を考慮した学科構成とカリキュラム編成、(2)エンジニアリングデザイン教育、(3)学生の相互交流、(4)地域の産業振興と人材育成支援等、(5)地域の発展に貢献できる人材の育成、(6)実践的英語教育と国際交流活動、(7)両校共同による校務の効率的運営を掲げています。

8月5日の第12回統合再編検討委員会で、これらに関する本年度の連携・共同事業推進計画がまとまりました。また、本委員会とは別に「連携強化推進委員会」を設けることになりました。これまでに教科書「事例に学ぶエンジニアリングデザイン」の共同編纂(3月)、鳥羽丸と暁寮での寮生会役員合同研修会(5月15、16日)、四日市港まつりでの両校合同PR(8月1日)などを実施し、学生海外派遣プログラム(10月13～23日)、名古屋港開港祭での両校合同PR(11月6、7日頃)のほか、入試会場の相互利用、入試説明会等での相互PR、ビデオ会議システムを活用した研修会などを予定しています。

学生の課外活動では、7月3、4日に三重県総合競技場体育館で開催された第48回東海地区高専体育大会バレーボール競技で男子が優勝し、賢島テニスガーデンでのソフトテニス女子個人戦では3位に入賞しました。また、8月21、22日に三重県営サンアリーナで開かれた第45回全国高専体育大会バレーボール競技には男子・女子ともに出場しましたが、善戦及びませんでした。

本年度の全国商船高専漕艇大会は11月20、21日に広島で開催されますが、4連覇に挑むカッター部やヨット部の活躍が期待されます。また、10月3日にスカイホール豊田でロボットコンテスト2010東海北陸地区大会、10月16、17日に高知市文化プラザかるぼーとで全国高専第21回プログラミングコンテストが開催されますが、本校チームの活躍が楽しみです。

鳥羽商船同窓会および会員の皆さまには、このような学生の課外活動のみならず、入学式・卒業式・海学祭などの本校諸行事において多大なるご支援をいただき、また伊勢志摩支部有志の「故郷の海を愛する会」による小中学生対象のボランティア事業や日本船主協会主催の国立高等専門学校(商船学科)5校合同進学ガイダンスなどを通して本校PR活動にご尽力いただき、深く感謝しております。

最後に、同窓会員の皆さまの益々のご活躍とご健勝を祈念しまして筆を置きます。

海学祭

**H22年10月31日(日)は…
毎年恒例の「海学祭」です。**
皆さん、ぜひご来場下さい。お待ちしております。

本部報告

平成21年度会務報告(昨年度会報報告以降)

平成21年度支部長会(於:鳥羽)

平成21年10月31日(土)13:00から、母校の海学祭に合わせ百周年記念会館内会議室において開催され、特別顧問の母校山田校長、伊藤教務主事、安念事務部長が来賓として臨席されました。

出席者は会長、副会長(2名)、支部長(7名)、会計監査(1名)、事務局(6名)、地元支部(理事2名)の19名の出席で開催されました。

ご欠席の副会長2名と支部長1名の3名からは委任状を頂戴し、同窓会会則第18条に定める支部長会の成立要件をすべて充足し開催されました。

会長挨拶、学校報告、会長活動の報告に続き次の議案が審議され、議案のとおり承認されました。

- i. 関西支部発足の承認
関西支部発足に伴う、同窓会運営細則の一部改訂(平成21年11月1日付け)が承認されました。
関西以西担当副会長は藤本昌之理事、関西支部長は籠田弘之理事を承認し、関西支部の管轄は近畿地方と岡山県としました。
*本会報に鳥羽商船同窓会運営細則を添付しています。参照ください。
- ii. 会計中間報告
- iii. 会員名簿作成
- iv. 会費納入の取り扱いについて
(会費の請求は10年前まで遡り請求する。記録も同じく10年前までとする)
- v. ホームページの活用とバナー広告募集のお願い
求人やバナー広告欄の活性化を図り、同窓会の収入増を図ります。
各支部においてバナー広告の募集を活発に行い、収入増につなげたい。
(会長名で各支部にお願い文書を送りする)
- vi. 同窓会入会拒否対策について
- vii. 各支部報告
- viii. その他(同窓会旗制作承認等)

各支部報告では問題点として以下の報告がありました。

- ・支部の範囲が広いので集まりにくい。
- ・全員に連絡しても集まりが少ない。
- ・高齢者が多いので若い人が参加しにくい。
- ・女性会員の参加者が少ない。
- ・現役の事務局員にはかなり無理を強いている。

平成21年度主要活動(21年度総会以降)

- ①同窓会報発行(9月25日)
- ②「商船高専合同進学ガイダンス」支援
- ③「故郷の海を愛する会」支援
- ④その他対外活動支援
 - i. 全国商船高等専門学校カッター・レースを支援しました。

- ii. 母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会に協賛しました。
- iii. 全日本船舶職員協会への商船学科卒業生の入会勧誘に協力しました。
- iv. 近藤真琴先生記念碑周辺整備事業(草刈2回)を実施しました。
- v. 全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に奨励金を贈呈しました。
- vii. 母校の海学祭に協賛しました。(支部長会と同時開催)

ホームページの運用

本格運用を開始して2年、本部の連絡、各支部だよりなどを都度掲載しています。又、以前に発行した同窓会報が閲覧できるようになりました。

最近のホームページへの訪問者数は毎日約25名程度と少しずつですが増加傾向にあります。

求人情報、バナー広告を募集しております。

又、求人情報欄はバナー広告がなくてもご利用いただけますので、会員相互の情報提供手段としてご使用ください。

同窓会データベース

過去のデータの整合と、住所等の訂正作業を実施しています。会報の送付時や総会の案内時に振替用紙と過去の納入記録を送付しております。

「納入記録の誤り」や、「住所等の変更」がある場合は、同窓会事務局(電話0599-25-8128)に連絡してください。22年度の総会案内は、約4,000通送付し、900通程のご返信でした。せめて、お返事を頂戴できればと思います。

- i. 総会資料にデータベースを利用した会費納入分析を添付いたしております。
- ii 過去10年分の納入状況を会員宛てに通知しております。今後も同様の記載とします。
- iii. 終身会員にご登録の済み方には、「終身会員」として記載します。
振替用紙は、会員名簿の購入等の送金時にもご利用いただけますので、終身会員の方々にも送付いたします。

*終身会員:終身会費は20000円とする。(満65歳以上で会費を完納している会員)

平成22年度会務報告並びに計画

平成22年度理事会・総会・懇親会(於:大阪)

6月13日、大阪のホテル京阪ユニバーサル・タワー4階において平成22年度鳥羽商船同窓会理事会・総会・懇親会がありました。

(理事会)

24名出席、21名委任状提出で理事会は開催となりました。

辻会長は術後療養中の為欠席し、中澤副会長が会長代行として議長を務めました。

以下の諸議案が討議され、承認されました。

議案:

1. 平成21年度会務報告
2. 平成21年度会計報告
3. 平成21年度会計監査報告

4. 平成22年度行事予定
 5. 平成22年度予算
 6. 同窓会運営細則の改定報告
 7. 同窓会役員の一部交代の承認
 8. その他（事務局・各支部報告）
- 同窓会事務局開設・会員名簿発行・同窓会旗制作・故郷の海を愛する会・全船協ウィーク等

（総会）

理事会に引き続き110名を超える会員の出席のもと総会が開催されました。

理事会と同様に中澤副会長が会長代行として議長を務めました。

母校の藤田校長、伊藤副校長、並びに全日本船舶職員協会の内田会長が来賓として参列してくださいました。

総会の冒頭、過去一年間に亡くなった同窓生31名のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げました。

総会では理事会決定事項の承認がされました。

本部事務局から以下の報告と業務委託した西岡さんの紹介がありました。

- ・百周年記念館1階に新たに同窓会事務局を開設しました。来校の際はぜひ立ち寄ってください。
- ・事務局業務を新たにTHCの西岡さんをお願いしました。
- ・同窓会旗を作成しました。各支部に配布します。
- ・新たに会員名簿を作成し販売開始しました。
- ・来年の母校の130周年記念行事を母校と相談し実施します。
- ・会員数の増減・支部別員数等の報告。
若い世代の会費納入向上を期待します。
- ・ホームページのアクセス数増加傾向にあります。見に来てください。投稿してください。

支部報告として、

伊勢志摩支部の「故郷の海を愛する会」の活動報告、東日本支部の横浜カッターレースへの参加、全船協の活動支援（日本丸、全船協ウィーク）などが説明されました。

（懇親会）

総会後の懇親会は110名を超える会員と母校の藤田校長、伊藤副校長、全船協の内田会長が参加し、籠田関西支部長の挨拶に始まりました。

会場には同窓会旗を始め、校祖近藤真琴の写真、商船教育創始者展のパネルが会場を盛り上げました。

最若手としてH21年Nの山口瑞穂さん、佐野綾さんも紹介されました。

二人は会場横から天保山を結ぶ旅客船「キャプテンライン」に乗船勤務しています。

関西支部の行き届いた手配により全員が楽しく盛り上がった懇親会となりました。



平成22年度会務計画・実績

22年度の今後の会務計画を下記します。一部は実施済みです。

- ・支部長会
平成22年10月30日（土）14:00～海学祭前日、
於：「百周年記念会館」
（翌日海学祭見学と特別事業「故郷の海を愛する会」参加）
- ・会報の発行
平成22年9月末発行予定
- ・対外支援活動（平成22年度行事予定参照）
- ①全国商船高等専門学校カッター・レースを支援する。
- ②母校の商船学科及び工業系学科の卒業祝賀会を協賛する。
- ③全日本船舶職員協会への商船学科卒業生の入会勧誘に協力する。
- ④近藤真琴先生記念碑周辺整備事業（草刈2回）を実施する。
- ⑤全国規模の体育大会出場学生及び学術コンテスト入賞学生に奨励金を贈呈する。
- ⑥日本船主協会主催の「合同進学ガイダンス」東京・神戸・福岡開催に各支部が協力する。
- ⑦日本財団補助事業（故郷の海を愛する会＝伊勢志摩支部有志）
 - i. 練習船「鳥羽丸」で行くユニバーサル造船所見学
 - ii. 伊勢湾フェリーで行く、伊勢湾マーチス見学と故郷の海山
 - iii. 海学祭と学校の歴史・海の話
- ⑧母校の海学祭に協賛する。（支部長会と同時開催）

平成22年度行事実績・予定

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月7日	木		入学式（本科S,M,I,専攻科生産）		
4月13日	火		記念館内同窓会新事務室 開所式	校長・副校長・会長・事務 局長・伊勢志摩支部長	
6月12日	土	15:30～	（理事会・総会）打合せ	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員	
6月13日	日		平成22年版会員名簿発行	事務局	前回平成17年版
6月13日	日	10:20～	理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員・全会員	懇親会 関西支部主催
7月17日 7月24日 7月25日	土 土 日		東京 神戸 博多 合同進学ガイダンス	東日本支部、 関西支部、 西日本支部	日本船主協会主催
7月28日	水		特別事業 鳥羽商船練習船「鳥羽丸」 で行く造船所見学と故郷の海山川	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。故郷の海を愛する会主催
8月19日	木 金		特別事業 伊勢湾フェリーで行く、 伊勢湾マーチス見学と故郷の海山	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。故郷の海を愛する会主催
9月15日	水		卒業式（N,E）・修了式（海事）	会長・担当副会長・地元支 部役員・事務局	
9月末日			同窓会会報発行	事務局	
10月1日	金		入学式（専攻科 海事）		
10月30日	土	14:00～	支部長会（翌日海学祭見学と特別事 業参加）	会長・副会長・支部長・事 務局・地元支部、	
10月31日	日		特別事業 海学祭と学校の歴史・海 の話	伊勢志摩支部	日本財団助成事業。故郷の海を愛する会主催
3月4日	金		卒業式（M・I）・修了式（生産）	会長・担当副会長・地元支 部役員・事務局	

平成23年度行事予定

月日	曜日	時間	行事内容	関係者	備考
4月6日	水		入学式		
6月11日	土		（理事会・総会）打合せ	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員	
6月12日	日		理事会・総会・懇親会	会長・副会長・会計監査・ 主管支部役員・全会員	懇親会 伊勢志摩支部主催

平成21年度会計報告

平成21年度損益計算書

自平成21年4月1日～至平成22年3月31日

収入の部

科 目	21年度予算	決算額	予算残高	備考
受取入会金	112,000	94,000	-18,000	卒業者減少 94名卒業
新卒者会費	448,000	188,000	-260,000	未加入者3名
受取会費(一般・特別・終身)	3,500,000	4,467,750	967,750	会費振込大幅増 会計方法変更
寄付金収入	200,000	428,000	228,000	大幅に増えた
パナ-広告収入	600,000	210,000	-390,000	20件計画するも7件のみ
受取利息	60,000	41,236	-18,764	
雑収入その他	0	13,920	13,920	全船協取り扱い手数料
21年度収入合計	4,920,000	5,442,906	522,906	実収入は予算を上回った

支出の部

科 目	21年度予算	決算額	予算残高	備考
支出負担金	440,000	405,000	35,000	
総会費	1,200,000	1,382,760	-182,760	
支部活動費	830,000	820,000	10,000	
会報等関係費	1,000,000	1,065,460	-65,460	
慶弔費	25,000	4,147	20,853	
旅費交通費	600,000	725,000	-125,000	
通信費	14,000	8,685	5,315	
事務用品費	20,000	316,004	-296,004	角22封筒¥210,000
会議費	90,000	45,750	44,250	
会務運営費	16,000	32,685	-16,685	
外部委託費	375,000	424,550	-49,550	引き継ぎ業務含む
対外活動費	200,000	360,000	-160,000	故郷の海¥300,000
会員名簿関連費	0		0	
予備費	110,000		110,000	
雑支出	456,000	576,000	-120,000	会員名簿,記念誌廃棄損
21年度支出合計	5,376,000	6,166,041	-790,041	
21年度収入・支出差額	-456,000	-723,135	-267,135	廃棄損除けば¥15万損

貸借対照表

流動資産	期首金額	期末金額	備 考
現金	0	11,456	
普通預金	3,919,898	4,054,936	
第三銀行	39,020	38,514	
郵貯銀行	3,049,513	349,460	
百五銀行	807,335	3,604,682	
郵便振替	24,030	62,280	
定期預金	24,386,225	24,426,596	
第三銀行	4,366,658	4,376,958	
三重銀行	5,028,078	5,038,135	
郵貯銀行	9,977,451	9,983,425	
百五銀行	5,014,038	5,028,078	
現金・預金合計	28,306,123	28,492,988	

棚卸し資産

大 科 目	期首金額	期末金額	備 考
会員名簿	393,000	0	期中売上¥273,000
記念誌	456,000	0	
棚卸し資産合計	849,000	0	廃棄損¥576,000

資産の部合計

29,155,123

28,492,988

負債・資本の部

負債の部

科 目	期首金額	期末金額	備 考
仮受金	0	3,000	会費の余り
会費預り金	4,540,000	4,488,000	
	1,200,000	1,310,000	
負債合計	5,780,000	5,801,000	

剰余金の部

科 目	期首金額	期末金額	備 考
別途積立金	20,000,000	20,000,000	
繰越金	3,415,123	2,691,988	5,740,000円会費及び各預り金振り替え
剰余金合計	23,415,123	22,691,988	
資産の部合計	29,155,123	28,492,988	
負債・剰余金合計	29,195,123	28,492,988	

会計監査報告

平成 21 年度期初、期末の銀行等の残高証明、会員名簿等の手持残、手持ち現金の確認を行い、21 年度収支に関しては領収書、金銭出納帳、各銀行等の出納記録と照会して監査した結果、いずれも正確かつ適正であった事を認めます。

平成 22 年 5 月 31 日

会計監査 飛田 喜八郎

会計監査 川口 心也

会計方法

今年度より複式簿記を採用しました。

従来は、納入会費は全て振込年度にて計上していましたが、今後はその年度分のみ計上し、それ以降の分は預かり金として計上します。その年度以前の分はその年度分として計上します。

昨年までに納入された会費で平成 22 年度以降の分は年度ごとに預かり金として計上しなおしました。

終身会費は納入年度から 10 年間で分割し、1/10 ずつその年度に計上します。

平成22年度予算

平成22年度予算

自平成22年4月1日～至平成23年3月31日

収入の部

科 目	21年度実績	22年度予算	差額	備 考
受取入会金	94,000	100,000	6,000	卒業者減少 100名卒業
新卒者会費	188,000	200,000	12,000	
受取会費(一般・特別・終身)	4,467,750	4,004,000	-463,750	
寄付金収入	428,000	400,000	-28,000	
バナー広告収入	210,000	240,000	30,000	
受取利息	41,236	41,236	0	
雑収入その他	13,920	13,920	0	全船協取り扱い手数料
繰越金取り崩し額		273,846	273,846	
22年度収入合計	5,442,906	5,272,992	-169,914	

支出の部

科 目	21年度実績	22年度予算	差額	備 考
支出負担金	405,000	405,000	0	
総会費	1,382,760	1,246,437	-136,323	
支部活動費	820,000	780,000	-40,000	
会報等関係費	1,065,460	1,065,460	0	
慶弔費	4,147	10,000	5,853	
旅費交通費	725,000	863,000	138,000	
通信費	8,685	0	-8,685	
事務用品費	316,004	335,100	19,096	
会議費	45,750	50,000	4,250	
会務運営費	32,685	340,445	307,760	同窓会旗代、事務所経費含む
外部委託費	424,550	600,000	175,450	
対外活動費	360,000	330,000	-30,000	故郷の海¥300,000
会員名簿関連費	0	-1,116,440	-1,116,440	広告料収入寄与
事務室備品		163,990	163,990	複合機・PC・エアコン等6年償却
予備費	0	200,000	200,000	
雑支出	576,000		-576,000	
22年度支出合計	6,166,041	5,272,992	-893,049	
22年度収入・支出差額	-723,135	0	-723,135	

22年度役員・理事名簿

2010年6月13日

本部

会長	1	辻 裕 S32N	会計監査	2	飛田喜八郎 S36E
副会長	4	中澤 昌信 S37N			川口 心也 S40E
		藤本 昌之 S42N	事務局長	5	金田 護 S42N
		竹川 俊幸 S42E	事務局		武部 二三男 S38N
		田中 三郎 S42N			溝井 昇 S42E
相談役	5	松本 暢生 S26N			江崎 隆夫 S44E
		桑嶋 收平 S31N			山口 伸輔 S48N
		菅原 昌男 S33N	学校連絡担当	1	鈴木 秀司 S48N
		松浦 肇 S36N			
		山田 岑生 S37E			

顧問

名誉顧問	1	落合 弘明 前同窓会長
特別顧問	3	藤田 稔彦 学校長
		伊藤 政光 副校長
		馬淵 憲治 事務部長

支部

理事数	44	西日本	2	関西	7	伊勢志摩	13	四日市	4
支部長		福岡 健彦 S33N		籠田 弘之 S39N		古川 昭一 S30E		室 博也 S55N	
理 事		福岡 健彦 S33N		籠田 弘之 S39N		古川 昭一 S30E		中澤 昌信 S37N	
		山下 文徳 S41E		藤井 俊明 S39E		山神 慎之亮 S30E		山田 岑生 S37E	
				藤本 昌之 S42N		大西 彰夫 S36N		室 博也 S55N	
				岡崎 和清 S48E		武部 二三男 S38N		西井 育央 S61E	
				岡室 孝美 S52N		金田 護 S42N			
				国安 政幸 S58N		溝井 昇 S42E			
				福田 美和 H7N		三井 健次 S43E			
						江崎 隆夫 S44E			
						山口 伸輔 S48N			
						橋本 晴行 S48E			
						内山 善勝 S48E			
						上村 健太 S63E			
						小田 純矢 H8E			
理事数		中部	6	東日本	10	北海道	2		
支部長		宗接万太郎 S48N		大橋 秀章 S49N		奥田 宣夫 S48E			
理 事		竹川 俊幸 S42E		辻 裕 S32N		奥田 宣夫 S48E			
		小林 正司 S43N		菱田 司 S35E		吉田 均 S48N			
		菅沼 延之 S48N		岩田 仁 S38E					
		宗接万太郎 S48N		可児 紘之 S39E					
		加塚 伸吾 S52E		中野 正義 S41N					
		荻野 武彦 S53N		田中 三郎 S42N					
				水野 正治 S43N					
				大橋 泰夫 S48N					
				大橋 秀章 S49N					
				菅原 秀樹 S51N					

支部だより

北海道支部

支部長 奥田 宣夫

本州の方々からは「北海道の夏は涼しい!」とよく聞きますが、今年は道内も高温・多湿の日が多く、本州並みとなりました。8月は、夏日が27日以上、真夏日も10日を超え蒸し暑い日も多かった札幌です。道民にとって今年は特に暑く感じたようです。飛行機で来道した本州の旅行者からの話では、新千歳空港着陸前に「気温は25度」と機内放送があったときには、旅客の多くから歓声と拍手が響いたそうです。35度越えの猛暑の本州からするとまだまだ涼しい気候なのでしょう。

さて、北海道支部としての活動は、昨年に函館で総会を開きましたが、今年は札幌で開催しようかと考えております。時期は、冬場になると思いますが、準備ができれば支部会員の皆様にお知らせしたいと思っております。そのほかの支部活動としては、これといって目立ったことはしておりませんが、まずは支部会員皆様同士の接触の機会を作りたいという事に目標を置いております。

今年6月13日に大阪で開催された本部総会に北海道支部として出席してきました。詳細は本号で掲載されると思いますが、1年に1回会う方や数十年ぶりに合う同級生や先輩方とも会えて、有意義なひと時を過ごすことができました。総会の席上で鳥羽商船同窓会の旗をいただいていたので、次回の支部総会にはご披露できると思っています。

最後をお願いといたしまして、会費の未納者も多くなっていると本部総会で聞いておりますので、北海道支部会員の方々の同窓会費の納入にご協力をお願いいたします。

東日本支部

支部長代行 水野 正治

例年がない暑い夏も過ぎ、皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度の東日本支部としての活動状況及び支部総会開催について報告します。

(1) 横浜港カッターレース (6月6日)

他の商船4校は例年参加しており、今年こそ鳥羽商船も参加しようということでエントリーし、参加メンバーを何とか集めて5月1日の練習を実施して6月6日のレース本番を迎えました。当日は応援者も多数来て戴き、新しい同窓会旗を打ち振る中、4艇中2位(3分11秒)の成績でレースを終えました。お陰様で怪我等もなく無事初参加を飾ることができ関係者の皆様有難うございました。また来年も参加して2分台のタイムを目指しましょう。

(2) 合同進学ガイダンス (7月17日)

昨年同様、「合同進学ガイダンス」が日本船主協会主催の元に開催されました。東日本支部として全面的に協力することとし、少しでも参加者を集めるよう会員各自、

地元の中学校に働きかけを行って戴きました。市の教育委員会に出向き、その市内全中学校にパンフレット・母校入学案内等を配布していただいた方もいました。

当日、鳥羽商船ブースには最後まで多数の中学生や親御さんが集まり、活発な質疑応答・意見交換が続いていました。この中から多くの入学生があることを祈念しています。

(3) 全船協ウィークイン帆船日本丸 (8月3日～8日)

横浜港みらい地区の帆船日本丸メモリアルパークにて開催されました「全船協ウィークイン帆船日本丸」に東日本支部も準備作業、運営スタッフとして参加しました。連日の猛暑の中、関係者多数のご来場を戴き有難うございました。準備・運営に当られた皆様本当にお疲れさまでした。

(4) 東日本支部総会

日時 10月22日(金) 18時30分開始

場所 ホテルマリナーズコート東京(東京都中央区晴海)

会費 5,000円(女性会員は3,000円)

昨年同様の会場です。東日本支部となって2回目の支部総会となります。東日本支部会員皆様のご参加を心よりお待ちしております。

別途、ご案内を送付しますので、是非ご参加をお願い申し上げます。

中部支部

支部長 宗接 万太郎

雑感 — 夏の終りに —

夏の終りは心が焦る。幼少の頃、夏休の課題を後回しにしたことや、はたまた夏の恋の終焉を嘆いた青春期の名残でしょうか?今年の夏はとにかく暑かった。異常気象による(?)全国的な水害などは、この世の終わりが近づいているかの如く、マスコミは連日のように騒ぎ立てました。恒例の夏の甲子園では沖縄興南の春夏連覇が終戦特番とうまくマッチした年でもあったのでしょうか。とかく夏は燃えるイベントが多い故か、夏の終わりは訳もなく淋しい気持ちになってしまう小生です。

歴史的政権交代から一年が経過しましたが、“ちょっと待てよ”と躊躇した昨夏を思い出します。現行与党を斬り捨てるのも躊躇うし、さりとて夢いっぱい民主党に本当にこれからの国家を託せるのか・・・やはりその不安は見事に的中したようです。今では連日の政党内政権争奪戦まで繰り広げられ、どこかの会社の醜い派閥争いとオーバーラップしてしまいちょっと興ざめ。政権交代で海運界や港湾業界が大きく変わることも殆ど皆無。だいたい我が国の食料に於ける輸入依存率もろくに識らないのは国民のみならず、それを真剣に憂いている政治家がどれ程いるのでしょうか?

去る6月25日、都心金山のサイプレスホテルにて、中部支部22年度総会が開催されました。30数名の参加となり、それなりに盛り上がったとは思いますが。出席者の多くはやはり名古屋港に拠点を置く港湾、海運関連の同窓が大半を占め、その他で生業している卒業生は少なかったようです。当日、中部支部の会員ではありませんでしたが、某最大手船会社を辞めたのはどの企業から

の採用もなく、アルバイト生活を余儀なくされていた若者の“買手”(?)探しの即席ステージでは、この就職難の最中、名古屋港の有力大手港湾会社3社から手が上がったことも、同窓会の意義ある一幕でした。とにもかくにも、同窓会活動のツールが脆弱な中部地区に於いて、“呑む”ことと“打つ”(ゴルフ)ことくらいしかなく、相変わらず同窓会活動に苦慮しております故、何か企画等アイデアがありましたら、どなたかご教示願いたいと思っております。

中京地区の経済状況はリーマン以来、若干上向きとの感があったのですが、ここにきて超円高の波が再来襲。とりわけ港湾・海運では、みんなの希望の”スーパー中核港構想“からも残念な伊勢湾は落選してしまい、またまたグレーな様相を呈してきました。結局、相も変わらずTさん次第といったところでしょうか。「サラリーマンの業界別平均年収」というWEBを先日目にしました。総合商社1210万をTOPに、放送942・石油851・海運836と50種の業界ランクで堂々の4位だそうです。証券や銀行をおさえてというところが凄いなと思いませんか？海のリマンもなくなったうえ、海と陸との給与格差がなくなり、船乗りの成り手が無いといわれて久しい昨今ですが、このデータを見る限り、まだまだ捨てたものではないと思います。殊に在校のみなさんは「海運日本の悲運を担ってほしい」とまでは申しませんが、乗船の道がある限り、海(船)を見かぎらないで欲しいと感じるこの頃です。

四日市支部

支部長 室 博也

四日市支部では、6月25日(金)に平成22年度支部総会を四日市シティホテルで開催いたしました。

金曜日の夕刻ではありましたが、21名の同窓生が一堂に会し、1年ぶりの再会に話の弾む会員の方もいました。

今回の支部総会では、初めてのI科会員(HGI西村氏)の出席がありました。これを契機に今後、I科、M科の会員の出席に弾みをつけたいと思っています。

また総会では、今後の活動方針として、平成23年度の本部総会を伊勢志摩支部と共に開催することが承認されました。四日市支部では、微力ではありますが、本部総会の開催に向けて、伊勢志摩支部と進めていきたいと考えています。

7月19日(日)には、全国高校野球選手権大会三重大会に出場する母校野球部の応援のため、室支部長を含む会員有志で、伊勢球場に行きました。

1回戦の対戦相手は、甲子園出場経験のある菰野高校で、昨年度の桑名西高校に引き続き、初戦から強豪との試合となりました。

試合結果は、残念ながら惜敗しましたが、母校ナインは強豪相手に途中あきらめることなく、健闘していました。ただ、対戦相手の応援席では、野球部員、在校生をはじめ、父兄やOBの方などがプラスバンドと共に試合を盛り上げていたのに比べ、母校野球部の応援席では、人影が少なく少しさびしい感じをしました。

四日市支部では、来年度も有志を募り、母校ナインの応援に行きたいと考えていますので、同窓会の皆様につきましても、来年の全国高校野球選手権大会三重大会の際には、母校ナインの応援に球場まで足を運んでいただ

たらと思います。

8月2日(日)には、四日市港まつりが開催されました。この港まつりに合わせて母校練習船鳥羽丸が学生を乗せて四日市港に来港しましたので、四日市支部では、支部役員が鳥羽丸へ歓迎訪船を行いました。毎年恒例となっていますが、この港まつりの中での鳥羽丸は、多数の市民を乗船させて一般公開や体験航海を行っており、港まつりの中で人気の高いイベントとなっています。

また、来港した学生は、港まつりの運営スタッフとして活躍していただきました。

現在では、この港まつりを開催するにあたって、母校の協力が必要不可欠となっており、四日市支部では、今後も、港まつりなどで来港する鳥羽丸や学生をしっかりサポートしていきたいと考えています。

伊勢志摩支部

支部長 古川昭一

一年ぶりにお便り申し上げます。

この夏ほど熱中症で騒がれた年はありません、昔の日射病と勘違いされる方もあるかと思いますが、大変な間違いの元になりますから、ご注意下さい。

さて、伊勢志摩支部より次の各項目について報告します。

1. 「故郷の海を愛する会」 本年の活動について
2. 支部総会について
3. 平成23年度の本部総会について

1. 「故郷の海を愛する会」 各活動の状況について
同窓会ホームページに写真も入れて掲載されていますので、ご覧になってください。この中で②伊勢湾フェリーで行く、伊勢湾マーチス見学と故郷の海山では、伊良湖側の愛知県田原市の観光協会及び教育委員会並びに渥美郷土資料館のご後援を頂き、田原市渥美郷土資料館の天野敏規先生から「渥美半島の歴史や伊勢志摩と渥美半島の交流」についてお話を聴くことが出来ました。

ここで、田原市側との折衝は同窓会本部事務局局長金田氏のご尽力に拠るもので、厚く感謝申し上げます。

さて、昨年10月、日本財団に助成申請。本年3月に3倍と云う難関の中、助成を認められ4月に助成金130万円を受けました。予算は150万円余で、不足額については本部予算の中から30万円を認めて頂きました。

タイトル「小中学生を対象とした造船所等の見学会の実施」

昨年申請時の応募範囲は、志摩・鳥羽・伊勢の各市としていましたが、実活動を始めるに当り、今年は近鉄沿線の多気郡明和町、松阪市を加えることにしました。対象となる子供達の人数を広げ、普段余り海に触れる事が少ない子供達にもと考え、対象を広げました。早速、松阪から活動項目①に6名の応募があり、5名が参加してくれました。逐次、広げたいと考えております。

今年の活動項目は

- ① 練習船「鳥羽丸」で行く、造船所見学と故郷の海山川
- ② 伊勢湾フェリーで行く、伊勢湾マーチス見学と故郷の海山
- ③ 海学祭に参加して楽しもう！商船学校の歴史・船と海の話

2. 支部総会について

伊勢志摩支部総会をどの様に行きゆくか、迷っています。今迄の経過は
平成20年 往復はがきによる案内で、場所・鳥羽シーサイドホテル 会費・7000円 実施

1170名の案内に対し20名の出席で、惨澹たるものでした。昼間からの酒席は時代にもそぐわないものがあり、以後中止しました。

平成21年 学校の海学祭に合せて、同窓会のテントを設けて皆様のご来校を待ちました。県外の会員数名と工業系の女性数名の御記帳がありました。同窓会に対して色々ご意見を持って見えますと思いますので、飾らぬ所の意見を是非述べて貰いたいと思っています

平成22年 本年も海学祭に、昨年と同様テントを設けて、皆さんの御来校をお待ちしたいと思っています。

他に、支部総会について、何か良い方法が見つかるまで、この海学祭に合せて行ってゆきたいと考えています。

3. 平成23年度本部総会について

既に、ご存知の事と思いますが、次の総会は鳥羽で行うことになっております。

伊勢志摩支部としては、是非とも多くの参加者を迎えることが出来るように活動したいと思います。現状では商船系の方々がこの同窓会を引っ張っていますが、本校卒業生は全て同窓です、工業系の方々の参加応援を願いたいものです。その為にも。

今年の海学祭には、商船系も工業系も集って支部を盛り上げ本部を盛り上げて行く方策を話し合いたいものです。

関西支部

支部長 籠田弘之

この原稿を作成しているころ(8月初旬)全国的に猛暑となり、私が居を構えている神戸も他に負けず暑い日が続きました。同窓会員の皆様如何お過ごしですか
関西支部発足後、大阪での本部総会を開催するための準備、そして開催、総会終了後の議事録の作成等、無事終了させることが出来ました。そこには若い同窓会員が積極的に動いて貰ったお陰です。
昨年の同窓会報出版後の支部の動きを下記のとおり、短くまとめてみました。

1. 関西支部としてスタート

昨年(2009年)7月に神戸支部長に選任され、同時に神戸支部と大阪支部との合併を辻会長から要請を受けた。

8月31日に大阪支部・神戸支部の理事の会合を開き、辻会長の意向を踏まえ、合併の方向で進めることとし、両支部総会に諮ることとした。

10月18日神戸支部総会、並びに10月25日大阪支部総会を開催、合併の議案をそれぞれ提出したところ、それについては反対の意見も無く、承認された。

10月30日支部長会で関西支部、及び関西支部長が承認され、11月1日付けで正式にスタート、その後11月30日に関西支部として初めての理事会を開き、支部長会で関西支部が承認されたことを報告するとともに、支部の組織・体制、並びに今後の活動方針等を決め、2010年度の支部総会に諮ることとした。

新たな組織としてスタートした関西支部、理事を中心と

して支部会員とともに、より良い支部を目指し頑張っていきたいと思っています。

本部及び各支部の支援、並びに助言のほど、よろしくお願い致します。

2. 第一回関西支部総会

本部総会(6月13日)の当日、11:00に開催しました。当日は会長・副会長等は理事会・総会が同時に開催され、これに出席されたこと、および総会受付等に支部理事・幹事の大半を振り分けしていたことから、支部総会は支部長・理事1名で議事進行となりました。しかし、関西支部会員が52名と多数の出席で、関西支部として初めての総会を盛り上げてくれました。

議事

- ① 関西支部としてスタートした経緯について支部長から説明
- ② 関西支部会員が653名と大組織となった
- ③ 関西支部理事・幹事の承認
- ④ 支部組織について説明
- ⑤ 今後活動方針など

全ての議案は承認され、盛会の中、支部総会は約30分で終了しました。

関西支部会員の皆様、支部総会は大阪と神戸で交互に開催します。今年度は大阪で開催したので来年(2011年度)は神戸で開催を予定しております。

一人でも多くの会員が出席して下さいることを期待しています。

3. 本部総会準備・開催

一昨年は東京、昨年は名古屋と本部総会が開催され、今年度は関西で開催することとなった。関西支部発足に向けて大阪・神戸両支部の理事が打合せをした席で開催地を大阪または神戸かを話し合い、2000年に神戸で総会を開催したので、今回は大阪でとの意見で一致した。まずは、会場の確保からと言うことで当時の大阪支部長にお願いした。

関西支部として初めての理事会を開いた席で本部総会の開催に向けてどのように進めていくか、最初の話し合いを持ち、その後、数回本部総会準備のための理事・幹事会を開き、進行状況確認、本部事務局に問い合わせる事項、その他不明な点について話し合いを行った。この会合開くごとに、総会開催に向け徐々に盛り上がってきました。また、本部事務局との間でメールのやり取りも繁盛になり、それぞれに担当している理事・幹事はこれで本職の仕事が出来るのかと思うような日々が続いた。5月下旬に支部理事・幹事が集まり、総会開催時の持ち場(担当)を決め、また最終の打合せを行い総会に臨むこととした。当初は総会出席者が55名と予定の人数にはほど遠く心配しましたが、関西支部の若手同窓会員が参加者を増やすため、同クラスの会員に声を掛け、より多くの参加者数となるよう努力して貰った結果、最終的に116名の参加者を確保することが出来た。従って今回の総会に参加した会員は若い人多かった。

総会当日、理事・幹事では賄えない案内係・雑用など、総会に参加した若い会員に手伝いをお願いし、参加会員をスムーズに会場に導くことができた。このように支部の理事・幹事だけではなく、関西支部の会員にも支えられながら総会を開催されました。また、同窓会名簿・船歌集(CD付き)を販売、両販売担当に女性会員を置き、女性会員が積極的に勧めたことから、船歌集は完売す

ることが出来た。

総会・懇親会は盛會に終わり、関西支部理事・幹事は無事に終了したことで安堵し、解散した。勿論、本部事務局が多量の協力を惜みなく注いで頂いたことで、盛會に終わることが出来たことを申し添えます。

私を含め、関西支部理事・幹事から金田事務局長をはじめ各事務局員に御礼申し上げます。

後日、本部総会の開催に携わった理事・幹事並びに会員の慰労会を開き、その労をねぎらった。

4. 大阪港カッターレース

毎年7月に開催される大阪港カッターレースに、今年は鳥羽商船の在学生在が初めて参加することとなったと、関西支部各理事に大阪市港湾局（主催者）に勤めている支部幹事から連絡を受けた。これを受け、理事・幹事から関西支部として後押ししてはとの意見が出たことから、持ち回りでこれを決め、差し入れの準備に入った。

遠い母校から大阪に来て、レースに参加することは鳥羽商船の名前を大会の参加者・応援団、および当日は日曜日で天保山にある海遊館・遊園地に遊びに来て多くの家族に鳥羽商船とはどんな学校なのか興味を持って貰えることは大変有意義なことだと思います。（海遊館の建物は栈橋に隣接しており、この建物の栈橋側に通路がある）また、大会本部の解説者は海技大学の先生で、どのような学校か我がチームのレース中に放送で説明されていました。

また、関西支部として差し入れを行い、同窓会の存在を在学生在に周知してもらい、卒業後、同窓会入会と、そして各支部の総会など、各活動に参加して貰うよう理事から説得、好感触を得たそうです。

鳥羽商船から参加したクルーの名前は「池の浦戦闘士」「池の浦爆漕隊」（2クルーの参加）で結果は下記のとおりです

- ・「池の浦戦闘士」は一回戦突破、二回戦で僅差の敗退
- ・「池の浦爆漕隊」は二回戦突破、準決勝で敗退

「池の浦爆漕隊」は全体のタイムで6位入賞した。

学生たちは決勝で漕げなかったことが悔しい思いをしたのか「来年も来て絶対優勝する」と心強い発言がありました。

大会当日は支部代表として、私と理事1名が大阪港天保山栈橋に赴き、応援してきました。

関西支部としては、来年も参加するようであれば、後押ししようと思っています。

5. 5校合同進学ガイダンス（神戸）

7月24日（土）神戸市のメリケンパークにある神戸海洋博物館で5校合同進学ガイダンスが開催された。参加人数は把握していませんが、会場に用意された席の3分の2程度は埋まり大変盛況でした。

ガイダンスの開会后、船主協会の副会長の挨拶があり、その後卒業生からのメッセージで機関長と三等航海士が何故商船学校に入学したか、並びに自身の経験等を写真を見せながら話されました。この二人は広島商船の卒業生で、残念ながら鳥羽商船の卒業生ではありませんでした。

その後、各学校別説明会に移った時点で、各校ブースの中で鳥羽商船と広島商船の前に多くの参加者が集まった。学校側の説明が終わった直後から父兄・中学生は積極的に質問し、入学に対し、前向きな方向を持ってこのガイダンスに参加しているのかなと感じました。

関西支部としての参加者は私一人でした。

西日本支部

支部長 福岡健彦

今年の夏は特に暑いといわれていますが、同窓会々員の皆様 如何お過ごしでしょうか

夏を沸かせた高校野球も沖縄興南高校の甲子園春夏連覇で幕を閉じました。

しかし今年夏の特筆すべきことは何と言っても八月六日、九日に広島長崎で行われた原爆死者への追悼・核兵器廃止へと世界の恒久平和を願っての平和記念式典ではなかったでしょうか、

被爆六十五年にして初めて国連事務総長の式典参加と演説、アメリカ・イギリス・フランス代表の参加は画期的なことで、被爆都市の悲願でもあります核兵器廃絶に向けた確かな一歩を踏み出したと思います。

さて、7月25日は福岡国際会議場で開催された「国立高等専門学校5校合同進学ガイダンス」に私と山下理事が出席しました。

準備してあった席はほぼ中学生とその父兄で満席になっておりましたが、中学生の人数にして20人程度ではなかったかと思えます。それでも昨年に比べてかなり増えておりました。

主催者の船主協会役員の挨拶、5校代表者の総合説明等は昨年と同じですが、今年は各学校の説明に加えて卒業生による船員の実務、実生活の話がありました。

本校からも若い現役の三等機関士が休暇を利用して出席し、学校生活の良い点、悪い点をありのままに非常に判り易く、しかもユーモアたっぷりに話してくれました。これが出席者に大変受けており、船についてかなり理解を深めてくれたものと思われました。

その後の個別説明の時には本校のブースにも3組ほどの中学生、父兄が熱心に説明を聴いておりました。

今年の西日本支部の総会および懇親会は、9月11、12日に下関の「海峡ビューしものせき」で実施する事にしております。

毎年出席者は多くありませんが、夜遅くまで歓談し大変楽しい時を過ごしております。

来年も日程が決まればすぐホームページに掲載いたします。支部の枠を越えて出席して頂ければ大変有難いと思っております。



鳥羽商船バレーボール部の活動について

制御情報工学科 准教授 江崎 修央

同窓生の皆さん、はじめまして。私は、高専21期電子機械工学科卒業の江崎と申します。私は、本校を卒業後、豊橋技術科学大学に進学し、2年間民間企業で務めたのちに、平成10年4月より制御情報工学科の教員として働いています。

私は現役の学生時代からバレーボールに取り組んでおり、本校のバレーボール部の顧問教員として、日々現役学生と汗を流しております。現在のバレーボール部の顧問としましては、部長に物理担当の富澤先生、男子は体育科の重永先生、女子は江崎が担当しております。重永先生は、私と同じ年に赴任されたのですが、名門筑波大学のバレーボール部出身で、クラブカップで日本一になるなど、指導者としてはもちろん、選手としても超一流の経歴をお持ちです。

バレーボール部の状況といたしまして、赴任当初は男子女子ともに東海地区高専体育大会においては5位が定位置でした。男子は平成19年度に東海地区2位になったことを皮切りに、平成20年度には悲願の東海地区大会優勝、北海道の苫小牧で開催された全国大会に出場することができました。平成21年度は、東海地区大会で不覚をとって2位となりましたが、今年度は圧倒的な強さで東海地区大会優勝を飾ることができました。一方の女子は、優勝こそ難しいものの、最近では東海地区大会ではコンスタントに2勝2敗の成績を残しており、来年こそは優勝を目指して練習に励んでいます。

さて、本年度は全国高専大会のバレーボール競技が鳥羽商船を主幹校として三重県営サンアリーナにて開催されることが決まっておりました。本校の男子チームは、あらかじめ主幹校枠として参加するため、東海地区で優勝はしましたが、北陸地区との代表決定戦への参加は東海地区の2位チームに譲りました。また、本年度初めて女子チームも主幹校枠での参加が認められたため、女子チームも初の全国大会への挑戦となりました。

両チームとも、全国大会に出場するにあたって夏休み返上で練習に取り組みました。今年の夏は、みなさんご存知の通りの酷暑で、体育館の室温も40度近くなることもありました。いつ熱中症で倒れてもおかしくない状況の中、男子は決勝トーナメントへの進出を目指し、女子は1点でも多く取れるように日々練習に励みました。

8月21日に行われた予選リーグでは、女子チームは関東甲信越地区代表の長野高専、近畿地区代表の明石高専と対戦しました。やはり全国大会常連チームの壁は厚く、両試合ともストレート負けはしましたが、すべてのセットで18点程度をとることができたことは、今後の励みになりました。男子チームは、初戦に九州地区代表で昨年の準優勝校である佐世保高専と対戦しました。全く歯が立たなかったわけではないですが、残念ながらストレートで敗れました。2戦目は、関東甲信越地区第1代表の長野高専と対戦しました。この試合はフルセットの末に勝利することができました。全国大会で勝利を上げるのは、平成2年度に本校が主幹校として初めて全国大会に出場した時以来の快挙です。(ちなみに、平成2年度には、私は現役選手として全国大会に出場させていただきました。)現在のバレーボールのレベルは昔に比

べて数段上がっており、全国大会で勝つことは非常に難しいのですが、選手の頑張りはもちろん、重永監督の指導・采配により、このような結果を得ることができました。

ところで、鳥羽商船バレー部にはOB会が組織されています。長年バレーボール部の顧問であった舟橋先生を中心として平成5年に結成されて以来、毎年OB会を開催し、現役との交流試合や懇親会を実施しています。今年度も7月24日に実施され、30名以上のOB/OGが集まってくれました。昼には現役学生と一緒にBBQ、午後は交流試合、夕方からはOB同士の懇親会として居酒屋にて盛り上がるというのが恒例行事となっております。今年度は、全国大会ということで、熱中症対策の大型扇風機を4台寄付していただいたほか、女子用のユニフォーム12着、男子用の横断幕もプレゼントしていただきました。ちなみに現在の現役学生が試合の時に着用するユニフォームはすべてOB会からの寄付によるものです。また、試合の時には飲み物の差し入れをしていただいたりもしています。このようなたくさんの寄付をいただき、OB会や試合の際に多くの激励をいただくことで、学生たちは持っている以上の力を発揮してくれています。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、思いつくままにバレーボール部の近況を書かせていただきました。これまでにバレー部OB会に参加していただけていないOB・OGの皆様もお気軽に来年度のOB会にご参加ください。メールアドレスさえ連絡いただければ連絡網に登録させていただきます。



※同窓会は第45回全国高等専門学校大育大会バレーボール競技に寄付しました。

クラス会

半世紀記念クラス会

S55(高専9)N@湯の山温泉:

岡本康裕 (S55N)

10月3日～4日に掛けて、3年前の白浜で決定した事項に従って、中部地区の担当でクラス会を湯の山温泉、「希望荘」で開催しました。伊勢湾台風の年に生まれた我々も半世紀が経過し、そこら中にボロが出始めており、今回、卒業以来、初めて会った者同士は初対面のような気分でした。しかし、5年もの間寮生活を共にした仲間なので、すぐに当時の話に花を咲かせていました。

宴会などの歓談では海運関係の話もありましたが、健康や家族の話題の方が多くなっていったような気がして、やはりそれ相応の年代に入ってきたんだなあと痛感しました。せっかく幹事が用意してくれた名物料理もすべて平らげることができなくなったり、酒の減り具合も3年前より遅くなったりした点も、衰えを如実に現しているようでした。



今年の会場は近くに繰り出せる施設が存在しないため、館内で他の宿泊客の迷惑にならないように夜遅くまで思い出話をしました。

翌日は子供の運動会などで5人が早退したのですが、もし船乗りを続けていたらできない家族サービスなので、いいような悪いような、複雑な思いでした。

特に決めた予定もなく、会費残高が御在所岳ロープウェイとほぼ同額であったため、乗ることになりました。このロープウェイも我々の生まれた年と同じ年に完成したそうで、これも何かの縁だったのでしょうか。30年ほど前は帆船のマストへスイスイと登った猛者であった某君も今では高所恐怖症となって、ゴンドラに乗ってから降りるまで「怖い」の連発だったので、他の客が同席してなくてやれやれでした。

ロープウェイの観光が済んで、昼となり、地元菰野町の名産、自然薯料理で精を付け、3年後には元気で再会しようとして約束して、解散しました。

来年が卒業30周年なので開催したいのですが、最も仕事や家庭が忙しい年代でもあるので、恒例の3年後開催となりました。

今回は関東地区担当、高橋(嘉)君幹事、福田(憲)君副幹事で開催します。今回、参加できなかった方も是非参加してください。なお、開催地は幹事一任ですので、お知らせが届くまで、お楽しみに。

参加者(出席番号順):浅野、糸川、岡本、加藤、河原、清久、杉本、高橋(嘉)、瀧源、塚越、津田、長尾、福田(憲)、藤田(明)、村田、室、望月、山田(晃)、山田(元)

高専7期生航海科クラス会報告

牛島 中山

去る平成22年1月16日(土)鳥羽小湧園にて32年ぶりの同窓会を開催いたしましたので、ご報告申し上げます。

当日参加者(牛島 熊谷 木場 坂口 田村 中山 増島 村田 森 森内 山川 矢田 山口 山中)14名と当時実技指導を頂戴した永野制御情報工学科教授のご隣席で定刻の18時より開始いたしました。

冒頭、幹事より航海科入学当時の恩師である柴田 栄教授及び学友の加藤君、御子柴君のご冥福を祈念して1分間の黙祷を捧げました。

各自の挨拶においては、何と申しましても在学中の予期せぬ事故により袂を分かつことになった村田君の万感迫る言葉を聴き、全員、感動溢れる思いで涙を流しました。

それから、2次会カラオケ、3次会飲み会と宴は続き、夜中の2時過ぎまでお互いの胸襟を開き、座学中、航海実習中そして寮生活の思い出や近況を心ゆくまで語り明かしました。

翌日は雲ひとつない快晴に恵まれ、5年後に再会を誓い合った我々を懐かしい鳥羽湾が暖かく見守る中で、又、それぞれの置かれた人生へと歩を進めました。

今回は各自、定年前の集いになる訳ですが、是非とも全員が心身とも健康で今回以上の参加を心から期待しましてクラス会報告と致します。

尚、最後になりましたが今回の催行にご協力いただいた鳥羽ヤンマー社長の江崎先輩、鳥羽丸船長の鈴木先輩、母校学生課の村田様に深くお礼を申し上げます。



81期会

S39N 藤村 郁二

6月5日～6日の2日間、近畿、中部、関東の9名が参加、横浜みなとみらいにて、81期会を開催しました。中には、卒業以来初めて(45年振り)会うメンバーもいました。

一日目は、宴会(本会)・カラオケ(2次会)・部屋(三次会)で、在学中の思い出や現況など夜の更けるのも忘れて肩振りました。

45年振りでも、すぐ昔に戻れる「同じ釜の飯」を実感しました。

2日目は、歩いて山下公園へ、折しも開催中のカッターレース会場へ、東日本支部の鳥羽商船OBチームに顔を出し、出艇が午後のため中華街にて腹ごしらえをして再度会場へ、声を張り上げて応援し、久しぶりにストレス発散が出来ました。

結果は支部の報告を参照下さい。

*写真は中華街にて S39E 可児 絃之 撮影



ご声援 ありがとうございました (*^-^*) 大橋泰夫

横浜港カッターレースへのご声援ありがとうございました。想いもよらないサプライズな熱烈声援に対し、現状で出せる馬力は出しきりましたが・・・ご期待(?)に応えられず面目ございません。

来年は、やりますよー

鳥羽商船艇 チーム“OB”(東日本支部)

参加いただきました記念(証拠)写真です。

81期会の皆様 ありがとうございました(*^-^*)

来年は、チームでの出艇も、ご検討・・・いかがですか??



平成22(2010)年鳥羽商船76 期同期会開催について

S34N 下川 公一

6月7日、岩佐(旧姓尾崎)幹事お世話による「76期同期会」が、グリーンと温泉の素晴らしい、「ダイヤモンド滋賀」(滋賀県甲賀市)にて開催され、今年是一个の節目、卒業後半世紀、「古希」前後の面々、そして55年間の御指導をいただき、「木戸先生の傘寿のお祝い」もかね、いつもながら和やかな雰囲気の中に、楽しい時を過ごしました。毎年回り持ちで開かれ、何時も翌日はゴルフ三昧、好きな者にはこたえられません。昨年は信州安曇野で2泊、温泉と自然を堪能、今年は一泊なるも以前にまして賑やかに楽しい会となりました。来年は幹事細川氏、朧氏で関西、淡路島近辺予定です。これも良き師、良き友、そして伝統ある鳥羽商船の、素晴らしいシーマンシップに培われ、人生の海の風を乗り越えて、今ある穏やかな恵みの時。

顧みれば素晴らしいご指導を戴いた先生方、先輩諸氏に心から感謝申し上げます。そして良き時にも、悪き時にもお支え下さった多くの方々、後輩諸氏。私共がおかけした御迷惑、御不快を心からお詫びいたします。

激動の時、皆様、いよいよご自愛の上、ご活躍のほど念じ上げ、お幸せを心からお祈り申し上げます。感謝をこめて。

母校の益々の発展を祈りつつ!! 紙面をお借りしましたことお許しください。

「出席者」 木戸先生ご夫妻、
石崎、岩佐、川井、神田、下川、
野田ご夫妻、林ご夫妻、細川、朧、
(敬称略) 猪野、奥野、久堀、柴山ご夫妻、須貝、





S37E 廣瀬典樹氏 工学博士となる



平成 21 年度 9 月期 東京海洋大学学位記・修了証書授与式において、S 37E 廣瀬典樹氏が博士号授与の榮譽に輝きました。おめでとうございます。授与式では豪華客船「飛鳥」機関長の制服で最後に登壇した廣瀬典樹氏の凛々しい姿は他を圧倒し、授与者中の最高齢（満 65 歳）で博士学位記が授与されました。博士学位論文のテーマは「船舶の

省エネルギーに関する研究」です。本論文の完成には、東京海洋大学海洋工学部附属練習船「汐路丸」における実船実験を含め約 10 年の歳月を要したそうです。尚、博士論文発表会及び学位記・修了証書授与式の模様は日本船舶機関士協会ホームページ <http://www.marine-engineer.or.jp> でご覧頂けます。

< 廣瀬典樹氏略歴 >

- 1964 年 鳥羽商船高等学校専攻科卒業
- 1964 ~ 1998 年 日本郵船株式会社
- 1998 ~ 2007 年 東京商船大学(東京海洋大学) 講師
- 2007 年 日本船舶機関士協会 上席研究員
- 2009 年 日本船舶機関士協会理事・上席研究員
- 東京海洋大学 工学博士取得、現在に至る。



会員の投稿

同窓会のホームページに投稿欄を設けましたが、会員からいくつか投稿がありました。紹介します。支部便りに掲載された記事も一部紹介します。会員の皆さん、同窓会のホームページにアクセスし、どしどし投稿してください。

太極拳 S40N 若林

50歳の頃から、定年後も打ち込める何かがあると探しておりました。いろいろ手を出した結果、何れも満足できず年月だけが過ぎていきました。

そんな57歳の時、ミニコミ誌に太極拳の記事があり、チョット覗いてみるかと・・・、それにハマッテ8年になります。

今では、(社)日本武術太極拳連盟に所属し、公認の2段で、B級指導員を取得しました。

簡化24式太極拳をメインに、連功・入門・初級・32式剣・総合太極拳(42式)・扇・推手 等を学んでいます。現在、自分が学んだ教室で、先生のアシスタントを勤めながら、別にもうひとつ小さな教室を持ち、学びながら教える日常です。

我々の合言葉は「決して無理せず太極拳を90歳まで」、太極拳は「意識」・「動作」・「呼吸」の三者を結合した運動で、体内に「気」を通し血流を良くします。脳を活性化し、認知症予防にもなります。

その結果、太極拳を続けている方は実年齢より、最低でも10歳は若く見られます。

来年は最高段位の3段に、再来年はA級指導員にチャレンジしようと考えています。

人間50年? いやいや人間90年、生涯これ勉強です!。皆さんも機会を見つけて、是非一度太極拳をご体験ください。

*写真は、神奈川県のある教室有志を集めた交流大会の様です。



戦没・殉職船員追悼式 S21N 川村 喜一郎

先の大戦で多くの日本人船員が亡くなっております。最近の調査では63,500人余で、本職の海軍軍人の戦死者よりはるかに多いのです。民間人と雖も強制的に乗船勤務を命じられたので、斯くも膨大な犠牲者数となりました。遺憾の極みです。

戦後直ぐ、軍人の戦死者は靖国神社に祀られましたが、船員は昭和45年になって漸くここ観音崎公園に”戦没船員の碑”が建立されました。



爾来、毎年この季節に追悼式が開催されています。本年6月4日は慰霊碑建立40周年で、天皇・皇后両陛下のご臨席を賜りました。ご遺族、関係者一同約800名は感銘一入、盛大な慰霊際となりました。鳥羽商船学校長より弔

電がありました。私は、一級海技士として、且つ鳥羽商船学校同窓会代表として記帳し、慰霊碑参詣を済ませました。

横浜港カッターレース 参加報告

『鳥羽商船艇 見事 完走！』 = タイム3分11秒 = 山下公園前で開催されましたカッターレースは、怪我人・途中棄権もなく無事終了いたしました。多数の同窓生の応援参加もあり、久しぶりに楽しい1日となりました！艇員は、比較的コンディションの良いメンバーから厳選、“S51 N卒”の精鋭中心に構成されました。艇長は、元カッター部顧問(?)田中さん(S42N卒)が努め、艇員の平均年齢を押し上げる一因とはなりましたが、その艇捌きは見事(?)なものでした。エンジンはやはり、後半やや失速！4艇中2位でのゴール……(-.-)フゥー惜しくも予選敗退 ///

/// ゴールタイム 3分11秒(-.-) ///

このタイムが 基準タイムです。来年は、基準タイムを超え、2分台が目標となります！

レース後 中華街にて打ち上げ、そして来年に向けての大反省会を行っています！！……

朝早くから準備をしていただきました菅原さん(S51N卒)はじめ、多くの同窓の皆様に支えられ、大会参加を終えましたこと、ここにご報告いたします。ありがとうございました。来年も、よろしく願い致します…

/// 明年也请多关照 谢谢 ///

大橋(泰)記

鳥羽商船艇 チーム“OB” 支右衛門

よく頑張った 精鋭とサポーターです。



来年は、何人残っているのかな…… ?
レース前の元気な姿より
追伸：大会の結果が発信されていました……
女子の決勝レース 優勝タイムは 2分26秒
完全に負けてます なんやねん?? 残念！！

赤福餅のしおりに鳥羽商船が！！ 大橋秀章 (S49N)

10月31日(土)に一年ぶりに鳥羽への旅に出向きました。同窓会の『支部長会』に出席する為ですが、毎年海学祭に合せて開催されているもので、今年で3回目の鳥羽行きでした。

この日に合せて三重県や愛知県在住のクラスメートと鳥羽で一泊して旧交を温めたりしており、今年は一期先輩の中部支部長と鳥羽で飲み明かすというハプニング付でしたが、毎年楽しみにしている鳥羽行きです。さて、家族が楽しみにしている「赤福餅」を買って帰るのが常となっていますが、帰って箱を開けてびっくり、中にしおりが入っていますが、何と鳥羽丸の絵が書かれているではありませんか。裏には説明が……。これは皆さんに是非見てもらわなければと投稿しました。そのしおりの写真を撮りましたのでご覧下さい。母校の歴史や海学祭の事もかかれています。このしおりは多分鳥羽で売られているものに限って入れられているのかもしれませんが、伊勢名物の赤福餅にこのような母校のことが記載されたしおりが入っているとは、驚きと嬉しい気持ちになった鳥羽行きでした。赤福餅関係者の皆様に感謝！



同窓生の母校来訪

4月19日にS33N 櫛田完次朗さん、S33E 出口孝友さん他合計5組の同窓生がご夫婦で旅行の途中、学校に立ち寄られました。

鈴木船長の案内を受け、記念碑・記念樹・資料館などをご覧頂き、新たに開設の事務室も見て頂きました。どうしても母校を奥様方に見せたかったそうです。記念樹の櫛田さんの卒業年と名前間違いがその時に判明しましたが、4月30日には訂正いたしました。たいへん失礼をしました。

お土産・ご寄付を頂きました。遅くなりましたがこの場で御礼申し上げます。

事務局では多くの同窓生の来訪を歓迎いたします。



会員紹介

同窓会のホームページに掲載した記事です。

月刊誌記事

今年の総会の受け付けに女性が2名いました。そのうちの1名がH18Nの鳥影尋端さん。東洋信号通信社に勤務しています。その勤務の様子が「大阪港」という隔月刊誌に掲載されています。めっちゃ元気です。



新聞記事

4月19日付読売新聞のECO ライフ欄で紹介された「給食の欠けた陶磁 再び器に」の記事にある小木曾順務さん(旧姓:太藤)はS44Eの同窓生です。岐阜県土岐市で頑張っているようです。



新聞記事

3月13日の朝日新聞に同窓生 H6E 浅井文治さんの記事が出ていました。太平洋フェリーで頑張っています。



船歌集 CD 好評発売中!!



なつかしの船歌がカラオケで13曲集録されております。もちろん鳥羽商船の校歌・寮歌も…。

事務局だより

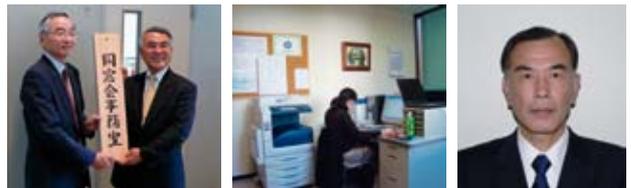
同窓会事務室

百周年記念館の1階に同窓会事務室を開設しました。記念館完成当初から記念館の3階に同窓会用の部屋はありましたが、狭く、3階にあるため不便であり、物置の状態でした。今回、学校の協力を得て、記念館に入って直ぐの部屋が同窓会の事務室として使用できるようになり、2010年4月13日に藤田校長・伊藤副校長と辻会長・事務局が参加して開所式を行いました。以後、西岡さん(下右の写真。同窓生ではありません)がほぼ毎日事務局作業を行っています。

これにて事務局の仕事が大いにやりやすくなりました。学校とのコミュニケーションもよりよくなると期待しています。

尚、これを機会に平成19年から事務局の業務を委託していたNCTとの契約は終了し、新たにTHCと契約しました。

事務室の電話は0599-25-8128です。不在の場合は留守番電話にて対応となります。



2010年2月24日から同窓会用に新たに私書箱を用意しました。

今後、同窓会への郵便物の送付先は以下の通りとさせていただきます。

〒517-8791

鳥羽支店 私書箱第16号

鳥羽商船同窓会

同窓会会計の健全化

会員の皆様のご協力により2009年度同窓会会計はかなり改善されました。

単年度黒字まで今一步のところまで来ました。

会費収入が大きく伸びたのと会員からの寄付金のおかげです。

同窓会活動の継続のため、今後とも会費納入・寄付金など多大なるご協力をお願いします。

同窓会費は年額 ¥2000 です。

ホームページのバナー広告料を同窓会会計の収入源として期待していますが、思うように集まりません。

より多くの方がバナー広告を目にする機会を作ろうと、ホームページのバナー広告を会報にも新たに掲載する事としました。

これにより、新たにバナー広告に協力しようという会員が現れることを期待しています。

同窓会ホームページ



2008年に開設し、2010年5月1日にアクセス数累計10000件を突破しました。
 2010年5～6月はホームページへのアクセス数が毎日50名程度まで増えました。その後、減少し、8月は平均で毎日30件を超える程度です。
 新しい記事をアップしないと当然のことですがアクセス数が減少します。
 それでも、会員の中に少しずつですがホームページへの理解が進んできていると感じています。80歳を超える会員からの投稿は感激でした。

今回の同窓会報に掲載された多くの記事はホームページに都度掲載されたものです。
 会員の皆さん、ホームページをのぞいてみて下さい。フレッシュな記事をタイムリーに見ることが出来ますよ。
 又、会員の投稿欄への投稿、支部便りへの投稿、その他、記事の提供をよろしく願います。クラス会を行ったとき等、写真付きで是非とも投稿ください。
 不慣れな場合は、原稿を事務局に送っていただければホームページに掲載します。

「過去に発行した同窓会報」
 1969年以降に発行した会報で事務局に残っているものは全て掲載しています。
 しかし、一部手元になくホームページに掲載されていない会報があります。
 1976年、1979年、1998年、1999年、2000年の会報をお持ちの方は事務局にお貸し下さい。

同窓会旗

同窓会活動の際、同窓会旗を掲げられるよう、同窓会旗を新たに用意しました。



本部と各支部に配布しました。
 各支部総会・カッター大会等の行事の際にどしどし使用して、同窓会が盛り上がることを期待しています。
 写真は今年の同窓会総会時に掲げられた同窓会旗です。

同窓会会員名簿発行

平成22年度版の会員名簿を2010年6月に発行しました。会員の正確な住所・職業などを記載するため、全会員に回答をお願いしましたが、約4000名の会員のうち1000名弱の返事しか得られませんでした。
 その結果、回答のなかった会員のデータは前回のデータを使用しています。
 又、今後の問題点として「個人情報の制限」があります。

今回の名簿では在校生については名前のみで住所等は掲載できませんでした。

尚、名簿にも記載していますが、「個人情報の取り扱い」に十分ご注意ください。
 本名簿は鳥羽商船同窓会の懇親のためのものです。時々、悪用されることがありますので、同窓生以外に譲渡などはご遠慮願います。コピーも禁止します。



名簿発行に関し多くの会員から広告を掲載して頂き、名簿発行事業は順調に進めることが出来ました。又、同窓会会計に貢献してくれる事となりました。ご協力ありがとうございました。
 尚、会員名簿は新卒者に配布する以外に未だ余裕がありますので、未購入の方は事務局に連絡ください。

事務局体制

毎年同じことを書いていますが、本部事務局の一同はほとんどの人が現役でそれぞれ自分の仕事をしています。
 自分の仕事をやりくりしながら事務局活動をしています。
 同窓生の事務局活動は全くのボランティアです。
 同窓会事務局としての仕事を外部委託していますが、何から何まですべてお任せできるものではありませんし、限られた会計の中ではその業務の多くを同窓生事務局が担当します。
 今年から外部委託先はTHCとなりました。同窓生事務局とのコミュニケーションも良くなり体制は大幅に改善されました。
 とはいえ、事務局の仕事はあふれており、同窓会・事務局を支えてやろうという方の参加を大いに期待しています。

生徒規範

かつて寮生活をした会員には懐かしいでしょうか、覚えていますか？

「生徒規範」

- 至 誠 一 貫
- 率 先 敢 闘
- 和 親 一 致
- 責 任 完 遂

このたび、会員の厚意により額入りの「生徒規範」が学校に寄贈され、学生寮の食堂に掲示されました。
 又、記念館の同窓会事務室にも同様のものが掲示されています。
 寮生だけでなくすべての学生が「生徒規範」の精神を受け継いでほしいものです。



会員の移動等

2010年 10月 会報発行 会員数

会員の移動

新入会員 (平成22年9月卒業生を含む)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
13	23	28	37	101

物故会員 (平成21年4月から平成22年5月31日)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
9	22	0	0	31

準会員

本科 (平成22年8月1日 現在数)

S科Nコース	S科Eコース	S科	M科	I科	合計
70	66	87	214	207	664

会員数 (平成22年5月 基礎データによる)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
1,449	1,726	683	638	4,496

特別会員 (平成22年5月 現在)

S科Nコース	S科Eコース	M科	I科	合計
5	4	0	0	9

専攻科 (平成22年10月入学予定者を含む)

海事システム学	生産システム学	合計
5	35	40

注記：S科 (商船学科) について

入学のときはコースを問わず、商船学科に入学します。航海にするか機関コースにするかは、2年生の終わるときに決めます。よって、上記準会員の本科生は2年生まではS科で、3年生からはS科Nコース、S科Eコースとして報告しています。

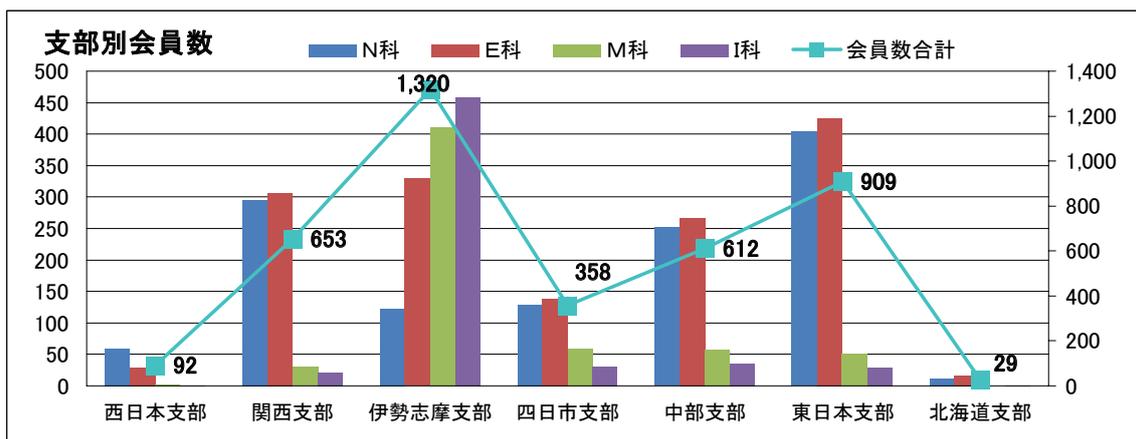
鳥羽商船同窓会 会員数・支部会員数

(平成22年3月 現在)

	卒業生	現会員	(現会員数内訳)		死亡	小計
			支部所属	支部不明		
N科	2,472	1,449	1,273	176	1,023	2,472
E科	2,653	1,726	1,512	214	927	2,653
M科	686	683	611	72	3	686
I科	638	638	577	61	0	638
合計	6,449	4,496	3,973	523	1,953	6,449

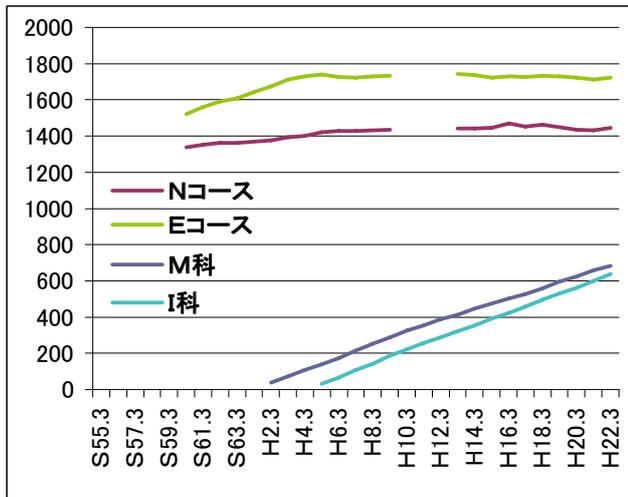
※特別会員は現会員数に含まれる。

	西日本支部	関西支部	伊勢志摩支部	四日市支部	中部支部	東日本支部	北海道支部	合計
N科	60	295	122	129	252	404	11	1,273
E科	29	307	329	138	267	425	17	1,512
M科	2	30	410	60	58	51	0	611
I科	1	21	459	31	35	29	1	577
会員数合計	92	653	1,320	358	612	909	29	3,973

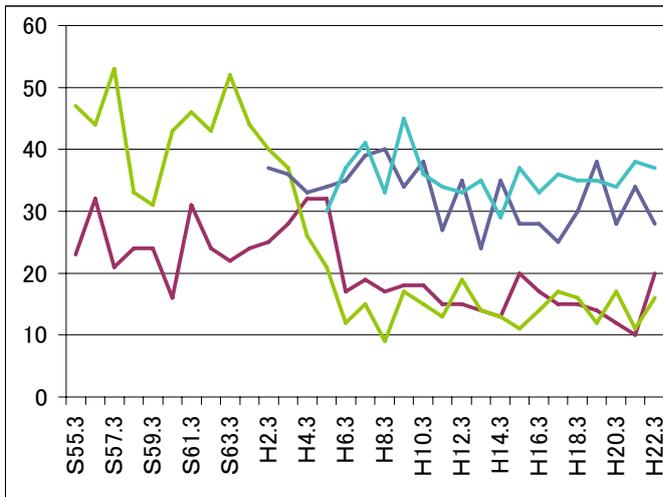


会員数の変化

会員数の記録（推移） 会員数



新入会員数

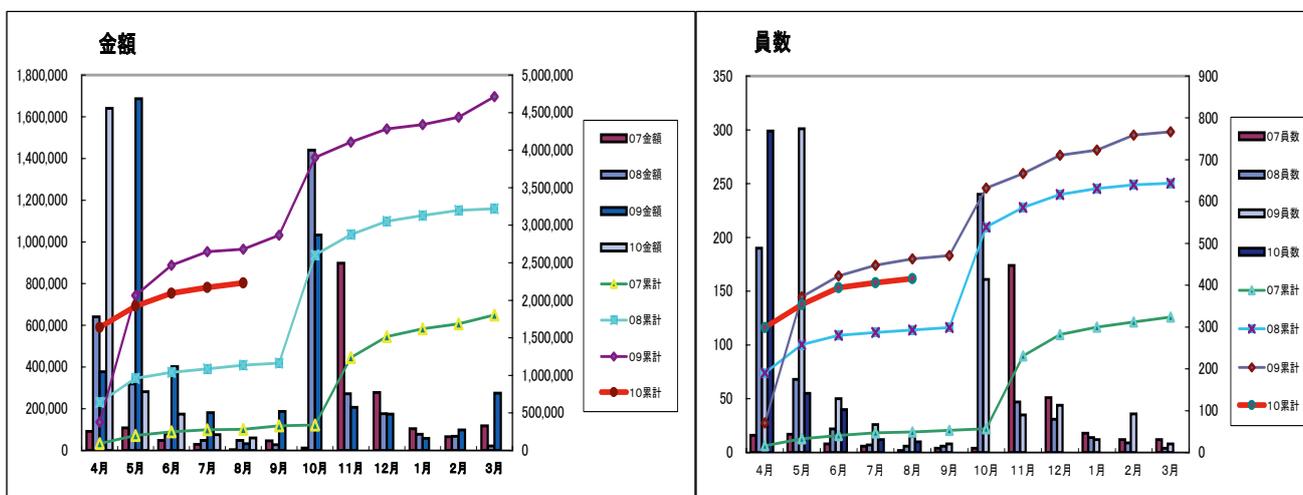


* Nコース、Eコースは平成13年～16年ごろにピークとなり、その後、少しずつ減少している。
 平成6年から卒業生が急減したせいである。それまではNコースで20～30名、Eコースで40～50名であったのが、夫々10～20名となった。
 会員の年齢構成から、現状の10～20名の卒業生であれば、減少傾向が続くこととなる。

* M科、I科は毎年夫々30～40名程度の卒業生となっている。
 会員の年齢構成が若いこともあり、毎年卒業生の数だけ会員が増えている。

* 学生定員
 昭和60年（1985年）から、従来、航海科40名+機関科80名であったのを、航海科40名+機関科40名+電子機械工学科40名となった。
 又、昭和63年（1988年）には、商船学科40名（航海コース+機関コース）+電子機械工学科40名+制御情報工学科40名となった。

月別会費納入状況



会費納入実績では4月と10月にピークがあります。
 これは会報の送付と総会の案内の時期に重なります。
 2009年度は2008年度に比べて大幅に増えました。

同窓会会費納入のお願い

円滑な同窓会運営の為会費納入にご協力下さい。滞納の方は分割でも結構です。

鳥羽商船同窓会ホームページへの スポンサー (バナー広告) 募集!!

鳥羽商船同窓会ではホームページを通して同窓生の親睦、母校の繁栄、更には海事思想の普及を図ります。そのホームページ上へのスポンサー広告(バナー広告)を募集しています。



バナー広告はトップページの中段右列に掲載されます。



詳細はホームページをご覧ください

鳥羽商船同窓会

検索

<http://tobashosen-dousokai.com/>

鳥羽商船同窓会運営細則 (改定)

平成 21 年度 10 月支部長会において一部変更されました。

(支部名称と管轄地域)

第 1 条 全国を 7 支部に分割し、支部名称と管轄地域を定める。

- (1) 北海道支部 北海道地方
(2) 東日本支部 東北・関東甲信越地方、静岡県の一部
(3) 中部支部 中部・北陸地方、静岡県の一部
(4) 四日市支部 三重県の北中勢地域
(5) 伊勢志摩支部 三重県の南勢地域
(6) 関西支部 近畿地方と岡山県
(7) 西日本支部 岡山県を除いた中国・四国・九州地方

(副会長)

第 2 条 副会長は若干名となっているが、当面副会長は 4 名体制とする。

2 副会長の担当支部を定め、会務遂行にあたる。

- (1) 田中副会長 北海道支部、東日本支部
(2) 竹川副会長 中部支部
(3) 中澤副会長 四日市支部、伊勢志摩支部
(4) 藤本副会長 関西支部、西日本支部

3 会長はあらかじめ職務代行副会長を指名しておき、指名なき場合は副会長間で協議する。

(支部長)

第 3 条 支部長は支部数名となっているので、現行支部長 7 名体制とする。

2 安定した支部活動を推進するため、支部長は 2 期 4 年以上の期間とする。

(理事)

第 4 条 各支部選出の理事数については当面次のとおりとする。

- (1) 北海道支部 2 名
(2) 東日本支部 10 名
(3) 中部支部 6 名
(4) 四日市支部 4 名
(5) 伊勢志摩支部 13 名
(6) 関西支部 7 名
(7) 西日本支部 2 名

(特別顧問)

第 5 条 会長経験者は理事会に諮り名誉顧問とする。

2 母校教職員のうち、学校長、副校長及び事務部長の職にあり、本会の趣旨に賛同する者で、理事会で承認された者を特別顧問とする。

(理事会)

第 6 条 定例理事会は原則として毎年 6 月に開催する。

2 定例理事会等の開催日時及び場所については事前に理事会若しくは支部長会で決定する。

(支部長会)

第 7 条 原則として定例理事会との重複を避け、年 1 回以上開催する。

(支部運営)

第 8 条 各支部には、副支部長・幹事・支部事務局・支部顧問等、支部業務運営に必要な支部役員をおくことができる。

2 支部業務運営に必要な支部規定を定めた場合は、理事会若しくは支部長会で報告する。

(会費)

第 9 条 入会金は 1,000 円とする。

2 会費は年額 2,000 円とする。但し、夫婦会員の場合の会費は 1 名分とする。

3 終身会費は 20,000 円とする。(満 65 歳以上で会費を完納している者)

附 則

1、この細則は、平成 21 年 11 月 1 日から施行する。

表彰及び慶弔細則

(表彰)

第 1 条 特に顕著な功績のあった会員には理事会若しくは支部長会において協議の上、表彰する。

2 表彰は表彰状若しくは感謝状を贈呈し、記念品を贈呈する事もできる。

3 表彰は支部長が内申し、理事会若しくは支部長会で決定する。

4 表彰は総会において行うことを原則とする。

(慶事)

第 2 条 特別の事情により祝意をあらわすこと及び式典の参加などの慶事については、会長と支部長が協議若しくは理事会で協議・決定する。

(弔事)

第 3 条 会員の逝去に際しては、会長と支部長が協議し、支部より会長の弔電を贈る。

2 特に顕著な功績のあった役員には会長の判断で生花・香典を贈ることができる。

附 則

1、この細則は、平成 20 年 6 月 8 日から施行する。

旅 費 細 則

旅費細則

(旅費の支給)

第 1 条 次の場合は旅費を支給する。

- (1) 理事会及び支部長会出席のための交通費
(2) 同窓会運営に必要な会合出席のための交通費
(3) その他、会長の承認を得た場合の交通費

(旅費の支払い)

第 2 条 旅費は交通費のみの支払いを原則とし、宿泊費、日当等は支給しない。

2 交通費は主要駅間の実費とし千円以下を切捨てとする。

3 事務局は主要駅間実費一覧表を作成し、それに基づき支給する。

附 則

1、この細則は、平成 20 年 6 月 8 日から施行する。



少子化の時代を迎え、義務教育以外の学校はいずれも学生募集に躍起になっています。特に大学は学生の全入学時代に突入し、一段と厳しさを増しています。将来の予断は許されず、学校としても学生募集の PR に励んでいます。

つきましては、より優秀な学生に入学していただくため同窓会員のご協力を仰ぎたい所存です。学校にご連絡下されば、A2 版ポスター、学校案内冊子、学生募集要項をお送りしますので、下記宛にご連絡下さい。

独立行政法人 国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校

〒517-8501 三重県鳥羽市池上町1-1 電話(0599)25-8404

ホームページアドレス http://www.toba-cmt.ac.jp/ E-mail gakusei-nyushi@toba-cmt.ac.jp

◎書類請求(無料)は本校の学生課入試・支援係へ